

マルチチャンネル インテグレートアンプ

取扱説明書

準備する

映像や音声を楽しむ

その他

お買い上げいただきありがとうございます。



警告

電気製品は、安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。この取扱説明書と別冊の「安全のために」をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

本機のマニュアルについて

本機には、以下のマニュアルをご用意しています。
それぞれのマニュアルで説明している内容は、下記のとおりです。



スタート
ガイド



取扱説明書
(本書)



ヘルプガイド
(オンライン)

準備する

設置する
接続する
初期設定をする

基本操作

映像や音声を楽しむ

応用操作

映像や音声を楽しむ

応用操作

ネットワーク機能を使う
BLUETOOTH機能を使う
マルチゾーン機能を使う
その他の機能を使う
設定を調節する

困ったときは

ご注意／仕様



ヘルプガイドをご覧になるには、下記URLを入力して
ください。

<http://rd1.sony.net/help/ha/strdn108/ja/>



警告



このマークは「高温注意 (Hot Surface)」を意味します。動作中に、この面をさわると熱く感じることがあります。

この取扱説明書の見かた

- 本書では主にリモコンによる操作を説明しています。本体にも同じ名称や類似の名称のボタンがある場合は、本体でも操作できます。
- イラストは細かい部分を省いて描いていることがあります。そのため実際の製品とは多少異なることがあります。
- 本書では、テレビ画面上の表示は[]、表示窓の表示は「 」をつけて表します。

目次

本機のマニュアルについて	2
この取扱説明書の見かた	3
本機の特長	4
付属品	7
各部の名前と働き	8

準備する

スピーカーを設置する	15
スピーカーを接続する	18
テレビを接続する	26
AV機器を接続する	30
ネットワークに接続する	35
アンテナを接続する	36
電源を入れる	36
かんたん設定を使って初期設定を行う	37

映像や音声を楽しむ

映像や音声を楽しむ	40
音響効果を楽しむ	44
ネットワーク機能について	49
BLUETOOTHヘッドホンやスピーカーで聞く	50

その他

消費電力を抑える	52
ソフトウェアのアップデートをする	52
困ったときは	53
使用上のご注意	59
保証書とアフターサービス	64
主な仕様	64
ソフトウェア使用許諾契約書	69

本機の特長

幅広い接続性と高音質・高画質フォーマットに対応

有線／無線によるネットワーク接続やBLUETOOTH®接続、USB接続に対応

- 本機にウォークマンやiPod/iPhone (AirPlay)、パソコン、NASやUSB機器を接続して各機器のコンテンツを再生したり、BLUETOOTHヘッドホンやBLUETOOTHスピーカーに音楽を送信したりできます。
- SpotifyとChromecast built-inの音楽サービスに対応しています。
詳しくは、ヘルプガイドをご覧ください。

オブジェクトベースの最新音声フォーマットに対応

- Dolby Atmos、DTS:Xに対応しています。

高品位なハイレゾ音楽再生に対応

- ネットワークオーディオ再生、およびUSB機器のコンテンツ再生では、WAV/FLAC/AIFF 192 kHz/24 bitや、DSD 5.6 MHz/5.1チャンネルなどのハイレゾコンテンツに対応しています。
- DSDコンテンツのネイティブ再生にも対応しています。

高画質な4K映像フォーマットに対応*

- 4K HDRおよびHDCP 2.2対応により、高画質な映像を楽しむことができます(30ページ)。

* 視聴する信号によってはHDMI信号フォーマットの設定変更が必要です。

最適なサラウンド空間を実現する機能

自動音場補正(D.C.A.C. EX*)により視聴環境を理想的なサラウンド空間に近づけるよう補正

- 付属の測定用ステレオマイクを用いてスピーカーの距離、角度、レベル、周波数特性などを測定、補正します(37ページ)。
- さらに理想的なスピーカーの位置と角度をシミュレーションし、音声を理想的な位置に再配置します(スピーカーリロケーション**).

さまざまなスピーカー設置条件に対応する音場補正機能

- ファントムサラウンドバック**：5チャンネルスピーカーシステムで7チャンネルスピーカーシステムのようなサラウンド効果を楽しむことができます。5.1.2チャンネルスピーカーシステムでも、聴感上、最大で7.1.2チャンネル相当のサラウンド効果を疑似的に楽しむことができます。

- フロントサラウンド：2本のフロントスピーカーのみでバーチャルサラウンド効果を楽しむことができます(25ページ)。
- インシーリングスピーカーモード**：天井埋め込みスピーカーからの音声出力を画面位置に下げて、より自然な音を再現します。
- センタースピーカーリフトアップ**：センタースピーカーの音を画面の高さまで持ち上げて、違和感のない自然な音を再現します。

* Digital Cinema Auto Calibration EX

** 詳しくは、ヘルプガイドをご覧ください。

高品位な音楽再生を実現する音響技術

好みの音場を選択可能

複数のサウンドフィールドから好みの音場を選んで楽しむことができます(44ページ)。

DSEE HX*により既存の音源をハイレゾ相当の情報量をもつ高解像度音源にアップスケール**

サンプリング周波数192 kHz相当までのアップサンプリング処理と24 bit相当までのビット拡張処理により、本来ハイレゾ音源に含まれている領域の信号を復元することで、MP3などの不可逆圧縮音源やCDをアップスケール。より原音に近く表現力豊かに楽しむことができます。

高品位なBLUETOOTH音楽再生(LDAC) **

LDACでは、従来のBLUETOOTH A2DPのSBC (328 kbps、44.1 kHz)に比べて最大約3倍の情報量の伝送が可能です。LDACに対応したヘッドホンやスピーカー、あるいはウォークマンやスマートフォンなどとBLUETOOTH接続して、高音質なワイヤレス再生を楽しむことができます。

映画制作時の迫力と臨場感を再現(サウンド・オブティマイザー) **

映画の制作時と再生時における音量の差によって生じる聴感上の周波数特性の違いを補正し、家庭での再生音量(低音量)でも映画制作者が意図した迫力やサラウンド効果を再現します。

* Digital Sound Enhancement Engine HX

** 詳しくは、ヘルプガイドをご覧ください。

その他の便利な機能

「SongPal」¹⁾、「SongPal Link」に対応²⁾

SongPalは、スマートフォン／タブレットからソニー製オーディオ機器を操作するためのアプリです。

スマートフォン／タブレットから本機を操作したり、SongPal Link機能を利用できます。

eARC (Enhanced Audio Return Channel)およびARC (Audio Return Channel)対応HDMI端子を搭載

テレビの音声をHDMIケーブル1本で楽しむことができます(28ページ)。

eARCは、HDMI 2.1で規格化された新機能です。

eARCに対応したテレビと本機をつなぐことにより、従来のARCで対応していたオーディオフォーマットに加え、ARCでは伝送できなかったDolby Atmos - Dolby TrueHDやDTS:XなどのオブジェクトオーディオやマルチチャンネルLPCMを楽しむことができます。

フロントスピーカーのバイアンプ接続に対応

フロントスピーカーが高域(ツイーター)用と低域(ウーファー)用それぞれの入力端子を備えている場合は、バイアンプ接続を利用してより高音質の再生を楽しむことができます(24ページ)。

いろいろな部屋で音楽や映像を再生可能²⁾

- ワイヤレスマルチルーム機能³⁾を使って、いろいろな部屋で音楽を聴くことができます。
- マルチゾーン機能を使って、別の部屋でメインの部屋とは別の音と映像を楽しむことができます。

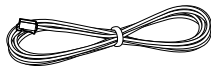
¹⁾ SongPalはSony | Music Centerへリニューアルしました。本機では、Sony | Music Centerをお使いいただけます。

²⁾ 詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

³⁾ 本機につないだ機器の音声を楽しめます。音声は映像より遅れます。

付属品

- リモコン (1)
- 単4形マンガン乾電池 (2)
- FMアンテナ線 (1)

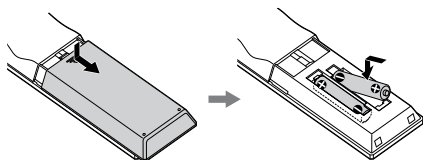


- 測定用マイク (1)



リモコンに電池を入れる

リモコンに単4形マンガン乾電池 (付属) を2個入れます。＋と－の向きを正しく入れてください。



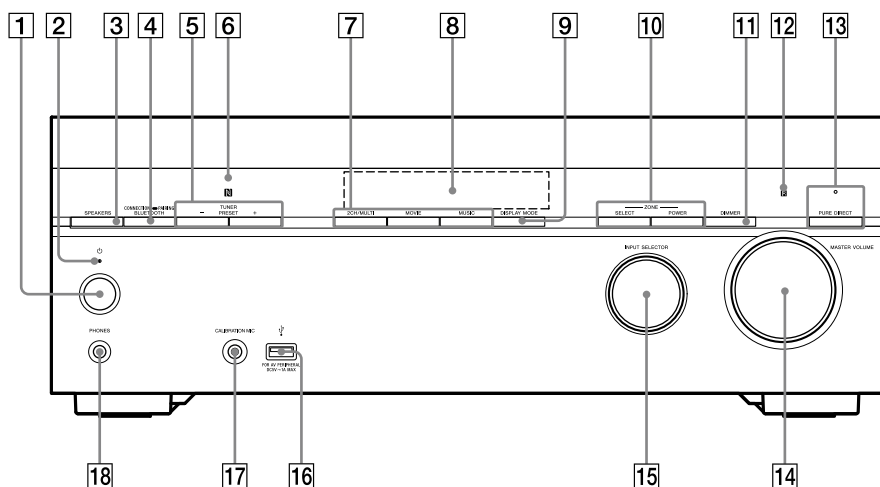
ご注意

- リモコンを高温多湿の場所に放置しないでください。
- 新しい電池を古い電池と一緒に使わないでください。
- マンガン電池と種類の違う電池と一緒に使わないでください。
- 本体前面のリモコン受光部を直射日光または直接光に当てないでください。誤作動の原因となることがあります。
- 電池は液漏れや腐食により破損するおそれがあります。長い間リモコンを使わないときは、電池を取りはずしておいてください。
- リモコンを操作しても本機が反応しないときは、電池を2つとも新しいものと取り替えてください。

各部の名前と働き

本体

前面



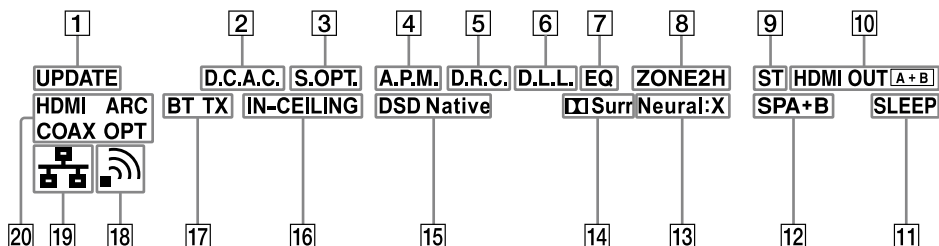
- ① ㊦ (電源) ボタン(36ページ)
- ② 電源表示ランプ
- ③ SPEAKERSボタン(39ページ)
- ④ CONNECTION ● PAIRING BLUETOOTHボタン
BLUETOOTH機能を実行します。
- ⑤ TUNER PRESET +/- ボタン
プリセットしたFMチューナーの放送局を選択します。
- ⑥ NFCセンサー
- ⑦ 2CH/MULTIボタン、MOVIEボタン、MUSICボタン(44ページ)
- ⑧ 表示窓(9ページ)
- ⑨ DISPLAY MODEボタン
情報を表示窓に表示します。
- ⑩ ZONE SELECTボタン、ZONE POWERボタン(41、43ページ)
- ⑪ DIMMERボタン
表示窓の明るさを調節します。
- ⑫ リモコン受光部
リモコンからの信号を受信します。
- ⑬ PURE DIRECTボタン
ピュアダイレクト機能を選んでいるときは、ボタンの上のランプが点灯します。
- ⑭ MASTER VOLUMEつまみ(40ページ)
- ⑮ INPUT SELECTORつまみ(40ページ)
- ⑯ ㊦ (USB) FOR AV PERIPHERALポート (AV周辺機器用)
AV周辺機器用のUSBメモリーを接続します。
- ⑰ CALIBRATION MIC端子(38ページ)
- ⑱ PHONES端子
ヘッドホンをつなぎます。

電源表示ランプ

- 緑色：本機の電源が入っています。
- オレンジ色：本機がスタンバイ状態で、以下のいずれかの設定になっています。
 - [HDMI機器制御]、[リモート起動]、[Bluetoothスタンバイ]または[ネットワークスタンバイ]を[入]に設定している
 - [スタンバイスルー]を[入]または[自動]に設定している
 - [ゾーン2機能]または[HDMIゾーン機能]を[入]に設定している

- 消灯：本機がスタンバイ状態で、以下のすべてを[切]に設定しています。
 - [HDMI機器制御]
 - [スタンバイスルー]
 - [リモート起動]
 - [Bluetoothスタンバイ]
 - [ネットワークスタンバイ]
 - [ゾーン2機能]および[HDMIゾーン機能]

表示窓上のインジケーター



- 1 UPDATE**
新しいソフトウェアが利用できるときに点灯します。
- 2 D.C.A.C.**
自動音場補正(D.C.A.C. EX)の測定結果が適用されているときに点灯します。
- 3 S.OPT.**
サウンド・オプティマイザーが働いているときに点灯します。
- 4 A.P.M.**
A.P.M. (自動位相マッチング)機能が働いているときに点灯します。自動位相マッチング機能は、D.C.A.C.機能の中でのみ設定できます。
- 5 D.R.C.**
ダイナミックレンジ調整が働いているときに点灯します。
- 6 D.L.L.**
D.L.L. (デジタル・レガート・リニア)が働いているときに点灯します。

- 7 EQ**
イコライザーが働いているときに点灯します。
- 8 ZONE2、ZONE H**
ゾーン2の電源が入っているときに「ZONE2」、HDMIゾーンの電源が入っているときに「ZONE H」が点灯します。
- 9 ST**
FMステレオ放送を受信しているときに点灯します。
- 10 HDMI OUT A + B**
音声/映像信号を出力しているHDMI OUT端子を表示します。
- 11 SLEEP**
スリープタイマーが働いているときに点灯します。
- 12 スピーカーシステム表示(39ページ)**
- 13 Neural:X**
DTS Neural:X処理が働いているときに点灯します。

14 Surr

ドルビーサラウンド処理が働いているときに点灯します。

ご注意

スピーカーパターンの設定によっては表示ランプが点灯しない場合があります。

15 DSD Native

DSDネイティブ再生をしているときに点灯します。

16 IN-CEILING

インシーリングスピーカーモードを使用しているときに点灯します。

17 BLUETOOTH表示

BLUETOOTH機器が接続されているときに「BT」が点灯します。接続操作中は点滅します。

[Bluetoothモード]を[送信]に設定しているときは、「BT TX」が点灯します。

18 無線LAN信号強度表示

無線LAN信号の強度を示します。

本機のネットワーク設定が行われていない場合は、電源を入れたあと、表示が30分間点滅します。

■ 信号なし



弱い



適度



強い

19 有線LAN表示

有線LAN接続されているときに点灯します。

20 入力表示

現在の入力を表示します。

HDMI

選択した機器からのデジタル信号が、HDMI端子から入力されているときに点灯します。

ARC

テレビ入力を選択され、eARCまたはARC信号が入力されているときに点灯します。

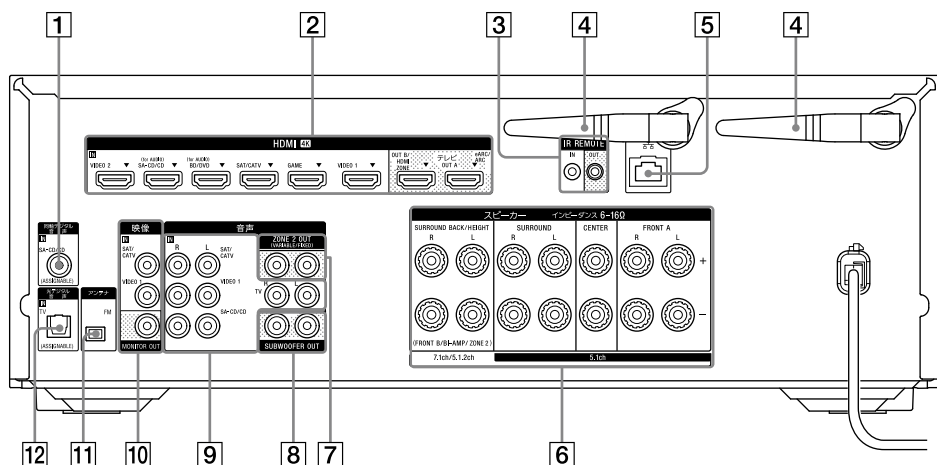
COAX

同軸デジタル音声IN端子からデジタル信号が入力されているときに点灯します。

OPT

光デジタル音声IN端子からデジタル信号が入力されているときに点灯します。

後面



1 同軸デジタル音声IN端子

2 HDMI IN/OUT端子*

3 IR REMOTE IN/OUT端子

- IRリピーター（別売）をIR REMOTE IN端子につなぐと、離れた場所から本機を操作することができます。
- IRブラスター（別売）をIR REMOTE OUT端子につなぐと、本機に接続したCDプレーヤーなどの機器を再生または停止できます。

4 無線LANアンテナ

5 LANポート

6 スピーカー端子

7 ZONE2 OUT端子

8 SUBWOOFER OUT端子

9 音声IN端子

10 映像IN/MONITOR OUT端子

11 FMアンテナ端子

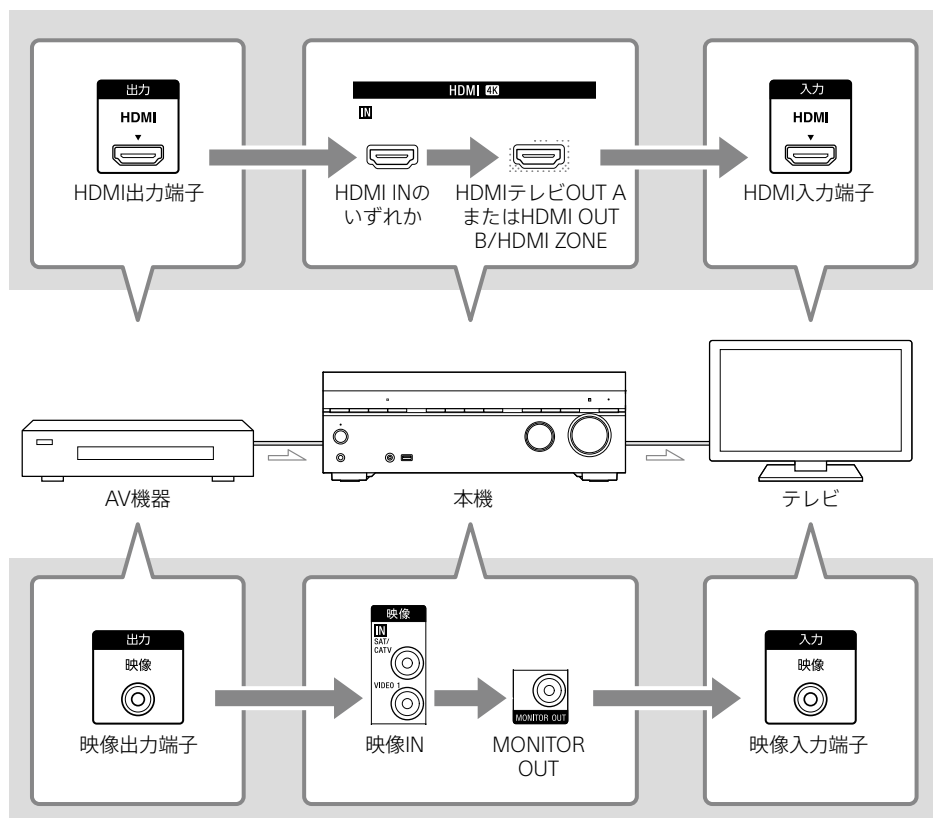
12 光デジタル音声IN端子

* 本機のHDMI IN端子およびHDMI OUT端子はすべてHDCP 2.2に対応しています。HDCP 2.2は4K映画などのコンテンツを保護するため、新たに高性能化された著作権保護技術です。

映像信号の入出力について

本機のHDMI IN端子に入力されたデジタル映像信号は、HDMIテレビOUT AまたはHDMI OUT B/HDMI ZONE端子からのみ出力されます。映像IN端子から入力されたアナログ映像信号は、MONITOR OUT端子からのみ出力されます。

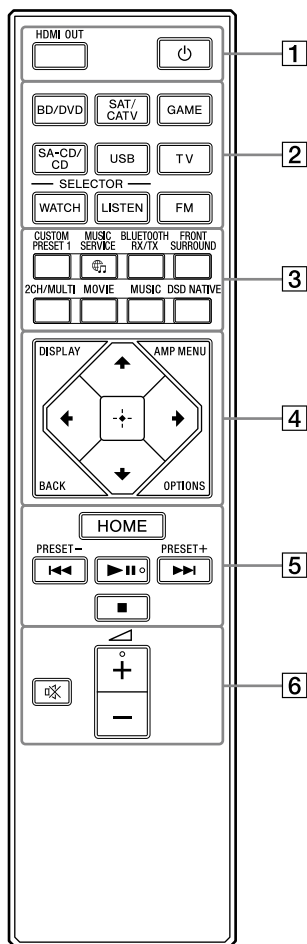
以下の図を参考に接続してください。



ご注意

MONITOR OUT端子につないだテレビには、本機のホームメニューなどの画面は表示されません。テレビ画面の表示を使って本機を操作する場合は、HDMIテレビOUT AまたはHDMI OUT B/HDMI ZONE端子にテレビをつないでください。

リモコン



① ㊤ (電源) ボタン

本体の電源をオンまたはスタンバイ状態にします。

HDMI OUTボタン

HDMIテレビOUT AおよびHDMI OUT B/HDMI ZONE端子に接続した2台のテレビへの出力を切り替えます。

[HDMI設定]メニューの[HDMI出力Bモード]を[メイン]に設定しているときは、ボタンを押すたびに、「HDMI A」、「HDMI B」、「HDMI A+B」および「HDMI OFF」と出力が切り替わります。[ゾーン]に設定している

ときは、ボタンを押すたびに「HDMI A」または「HDMI OFF」に切り替わります。両端子からの出力をオフにしたいときは「HDMI OFF」を選びます。

② 入力切り替え用ボタン

BD/DVDボタン、SAT/CATVボタン、GAMEボタン、SA-CD/CDボタン、USBボタン、TVボタン、FMボタン

使いたい機器を接続した入力チャンネルを選びます。いずれかの入力切り替え用ボタンを押すと、本体の電源が入ります。

WATCHボタン、LISTENボタン

ホームメニューで選ばなくても、直接[Watch]または[Listen]の画面を表示できます。

[Watch]画面表示中にWATCHボタンを繰り返し押すか、[Listen]画面表示中にLISTENボタンを繰り返し押すと、視聴したい入力を選ぶことができます。

③ CUSTOM PRESET 1ボタン

本機の各種設定を保存、呼び出します。ボタンを短く押して、プリセット登録したカスタム設定を呼び出します。長押しすると現在の設定をプリセット登録します。

MUSIC SERVICEボタン

Spotify Connect¹⁾を使って本機で音楽を聞いたことがある場合は、MUSIC SERVICEボタンを押すとSpotifyの音楽の続きを再生します。

操作について詳しくは、ヘルプガイドをご覧ください。

BLUETOOTH RX/TXボタン

[Bluetoothモード]を[受信]または[送信]に切り替えます。

[受信]モードのときは、本機が音声を再生機器から受信して出力します。

[送信]モードのときは、本機が音声をBLUETOOTHヘッドホンやBLUETOOTHスピーカーに送信します。

FRONT SURROUNDボタン、2CH/MULTIボタン、MOVIEボタン²⁾、MUSICボタン²⁾

サウンドフィールド(音場)を選びます。

DSD NATIVEボタン

DSDネイティブ機能をオンにします。

④ DISPLAYボタン

情報をテレビ画面に表示します。

AMP MENUボタン

本機を操作するためのメニューが表示窓に表示されます。

BACKボタン

メニューまたはオンスクリーンガイドをテレビ画面に表示しているとき、前のメニューへ戻る、またはメニューを閉じます。

OPTIONSボタン

オプションメニューを表示させます。
(テレビ入力の場合は、オプションメニューは表示されません。)

Ⓜ(決定)ボタン、↕/↔/↗/↘ボタン

↕、↔、↗、↘ ボタンを押してメニュー項目を選び、Ⓜ ボタンを押して決定します。

⑤ HOMEボタン

テレビ画面にホームメニューを表示させます。

◀◀/▶▶ (前へ/次へ)ボタン、

▶|| (再生/一時停止)ボタン³⁾、

■ (停止)ボタン

スキップ、再生、一時停止、停止の操作を行います。

PRESET +/-ボタン

プリセットした放送局やチャンネルを選びます。押したままにすると、自動的に放送局をスキャンします。

⑥ ◀ (音量) +³⁾/−ボタン

すべてのスピーカーの音量を同時に調節します。

ⓧ (消音)ボタン

一時的に音を消します。消音を解除するときは、ボタンをもう一度押します。

¹⁾ Spotifyのプレミアムアカウントをお持ちの場合のみ、本機でSpotifyの音楽を再生できます。

²⁾ 入力信号やスピーカーパターンの設定、または音声フォーマットによっては、映画用および音楽用のサウンドフィールドが機能しない場合があります。

³⁾ ▶||ボタンおよび◀ + ボタンには凸点(突起)が付いています。操作するときの目印としてお使いください。

ご注意

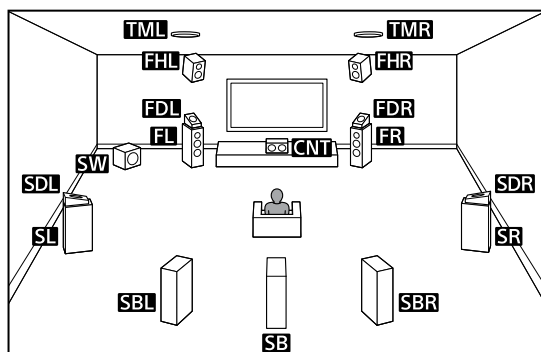
- 上記の説明は例としてあげています。
- つないでいる機器の種類によっては、付属のリモコンで操作しても、ここで説明されている機能の一部が働かないことがあります。

準備する

スピーカーを設置する

本機には、最大7台のスピーカーと2台のアクティブサブウーファーを接続することができます。お好みのスピーカーシステムに合わせてスピーカーとアクティブサブウーファーを設置してください。

各スピーカーの位置



ご注意

- サラウンドバックスピーカー (SB)を1台のみつなぐ場合は、サラウンドバックスピーカーを視聴位置の真後ろに置いてください。
- アクティブサブウーファー (SW)から出力される音声には指向性がないため、お好みの場所に設置できます。

スピーカーの名前と機能

図で使われている略称	スピーカー名	機能
FL	フロントLスピーカー	フロントL／フロントRチャンネルの音声を出力します。
FR	フロントRスピーカー	
CNT	センタースピーカー	センターチャンネルの音声(セリフやボーカルなど)を出力します。
SL	サラウンドLスピーカー	サラウンドL／サラウンドRチャンネルの音声を出力します。
SR	サラウンドRスピーカー	
SBL	サラウンドバックLスピーカー	サラウンドバックL／サラウンドバックRチャンネルの音声を出力します。
SBR	サラウンドバックRスピーカー	

図で使われている 略称	スピーカー名	機能
SB	サラウンドバック スピーカー	サラウンドバックチャンネルの音声を出力します。
SW	アクティブサブウーファー	LFE（低域効果音）チャンネルの音声を出力して他のチャンネルの低音部を補強します。
TML	トップミドルLスピーカー	トップミドルL／トップミドルRチャンネルの音声を出力します。
TMR	トップミドルRスピーカー	
FDL	ドルビーアトモスイネーブル ドフロントLスピーカー	トップミドルL／トップミドルRチャンネルの音声を出力し、天井に反射させます。天井スピーカーを設置せずに、ドルビーアトモス3Dコンテンツの音声を再生します。
FDR	ドルビーアトモスイネーブル ドフロントRスピーカー	
SDL	ドルビーアトモスイネーブル ドサラウンドLスピー カー	トップミドルL／トップミドルRチャンネルの音声を出力し、天井に反射させます。天井スピーカーを設置せずに、ドルビーアトモス3Dコンテンツの音声を再生します。
SDR	ドルビーアトモスイネーブル ドサラウンドRスピー カー	
FHL	フロントハイルスピーカー	フロントハイル／フロントハイルチャンネルから音声を出力して高低差のあるサウンド効果を追加します。
FHR	フロントハイルRスピーカー	

スピーカー構成とスピーカーパターンの設定

お使いのスピーカー構成に合わせてスピーカーパターンを選びます。
次の表はスピーカー構成と設定の例です。各スピーカー構成例の配置、接続図は「スピーカーの接続例」(19 ページ)をご覧ください。

各ゾーンのスピーカー構成		[サラウンドバックスピーカー割り当て] *	[スピーカーパターン]の設定	接続の参照ページ
メインゾーン	ゾーン2			
5.1チャンネル	使用せず	—	[5.1]	19
7.1チャンネル(サラウンドバックスピーカー使用)	使用せず	—	[7.1]	20
5.1.2チャンネル(トップミドルスピーカー使用)	使用せず	—	[5.1.2 (TM)]	21
5.1.2チャンネル(ドルビーアトモスイネーブルドフロントスピーカー使用)	使用せず	—	[5.1.2 (FD)]	22
5.1チャンネル	2チャンネル	[ゾーン2]	[5.1]	23
5.1チャンネル(バイアンプ接続)	使用せず	[バイアンプ]	[5.1]	24
2.1チャンネル(フロントサラウンドを楽しむ)	使用せず	—	[2.1]	25

* スピーカーパターンをサラウンドバックおよびハイト／オーバーヘッドスピーカーを使わない設定にしたとき[サラウンドバックスピーカー割り当て]を設定できます。

ちょっと一言

[スピーカー設定]メニューの[SPKリロケーション／ファントムSB]を[タイプA]または[タイプB]に設定すると、聴感上、最大で7.1.2チャンネル相当のサラウンド効果が楽しめます。

[SPKリロケーション／ファントムSB]の設定を行う場合は、その前に自動音場補正(37 ページ)を行ってください。

スピーカーを接続する

本機は、最大7.1チャンネルまでスピーカーを接続することができます。

次ページからのスピーカー配置図は、スピーカーの理想的な配置例です。お使いのスピーカーを図とまったく同じように配置する必要はありません。

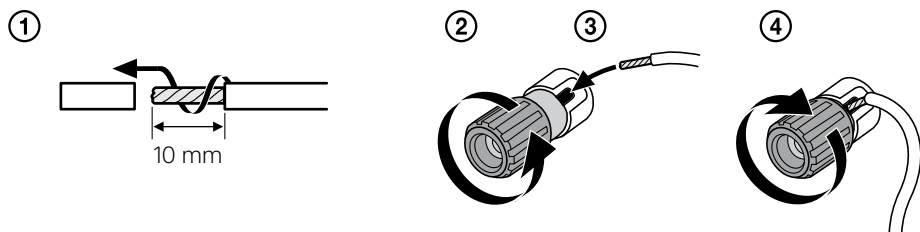
ご注意

- 本機に接続できるスピーカーの適合インピーダンスは、 $6\ \Omega \sim 16\ \Omega$ です。
- ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。
- 電源コードをつなぐ前に、スピーカーケーブルの金属ワイヤーが他の端子と接触していないことを確認してください。
- オートスタンバイ機能付きのアクティブサブウーファーをつないで映画を見るときは、オートスタンバイ機能をオフにしてください。オートスタンバイ機能がオンになっていると、アクティブサブウーファーの入力信号のレベルに合わせて、電源がスタンバイ状態になり、音声聞こえなくなることがあります。
- 最大2台までのアクティブサブウーファーをSUBWOOFER OUT端子につなぐことができます。

スピーカーケーブルのつなぎかた

スピーカーケーブルをスピーカーおよび本機の端子に正しく接続してください。

スピーカーワイヤーはしっかりとねじり、スピーカー端子に確実に差し込んでください。



ご注意

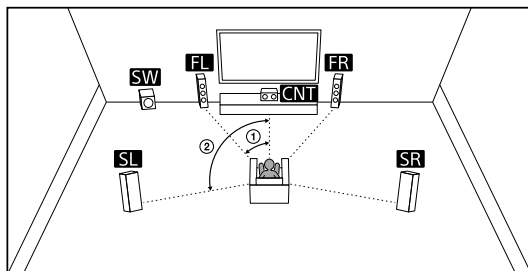
- スピーカーケーブルの被覆をむきすぎて、スピーカーワイヤー同士が接触することがないように気をつけてください。
- スピーカーケーブルは、本機側とスピーカー側の極性(+/-)を合わせて正しくつないでください。



- 不適切な接続をすると、本機の故障の原因となることがあります。

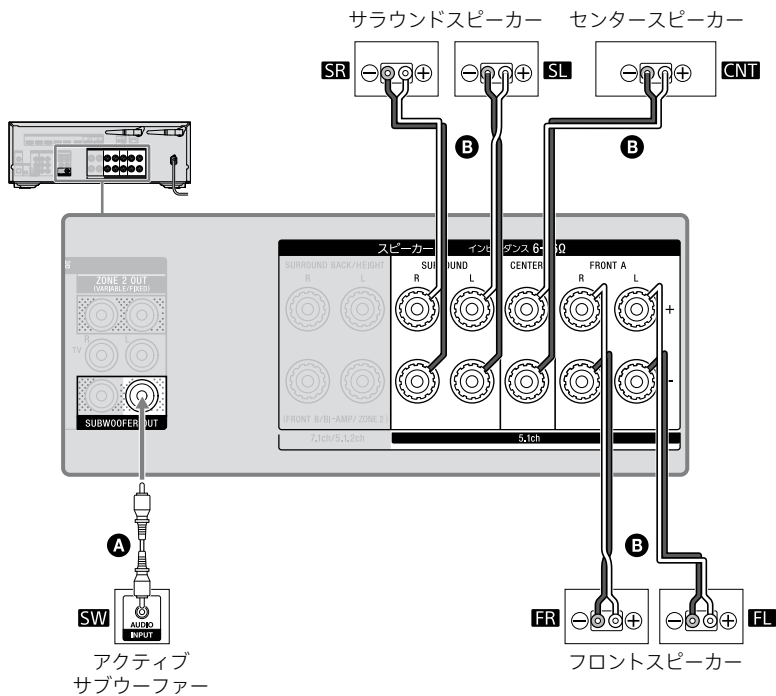
スピーカーの接続例

5.1チャンネルスピーカーシステム

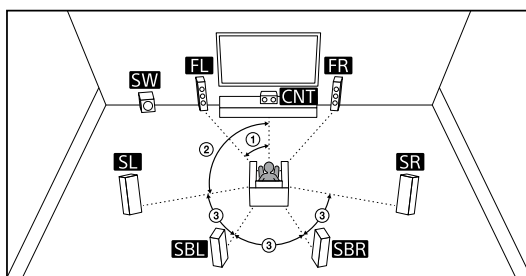


① 30°

② 100° ~ 120°



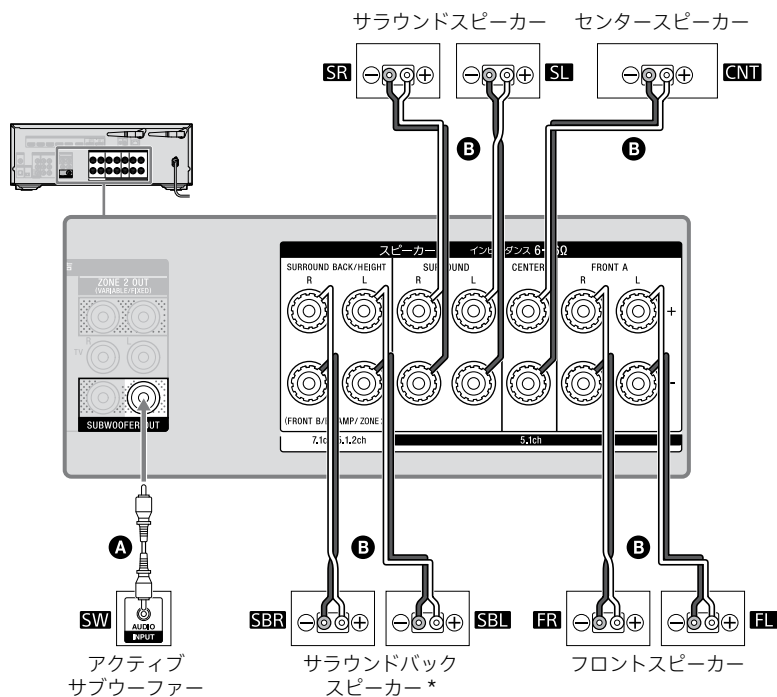
7.1チャンネルスピーカーシステム(サラウンドバックスピーカー使用)



① 30°

② 100° ~ 120°

③ 同角度



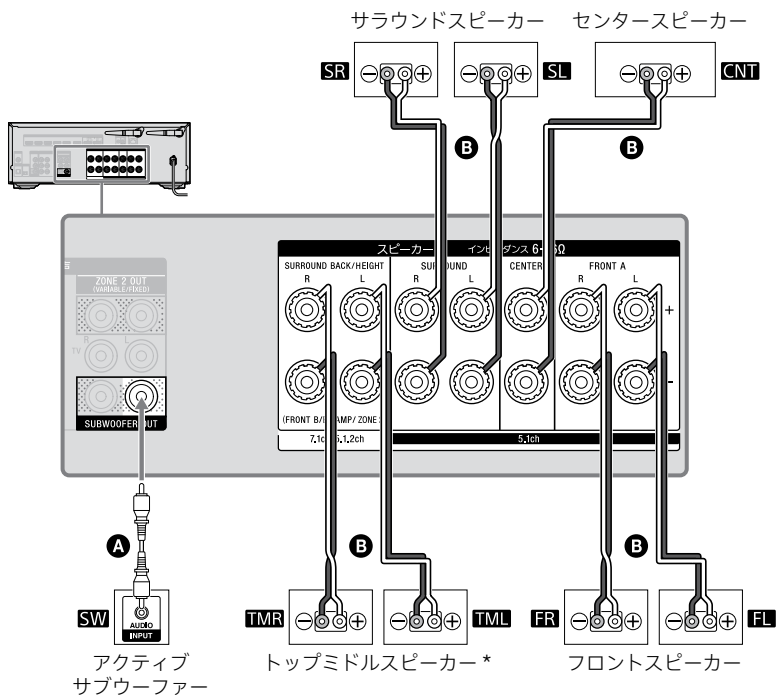
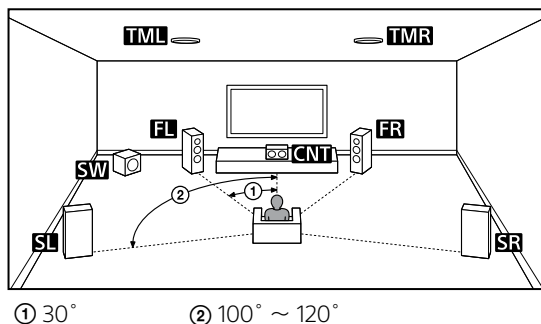
A モノラル音声ケーブル(別売)

B スピーカーケーブル(別売)

* サラウンドバックスピーカーを1台のみ接続する場合は、サラウンドバックスピーカーをL (+/-) 端子に接続してください。

接続後、[スピーカー設定]の[スピーカーパターン]でサラウンドバックスピーカーを1台のみ接続したスピーカーパターンを選んでください。

5.1.2チャンネルスピーカーシステム(トップミドルスピーカー使用)

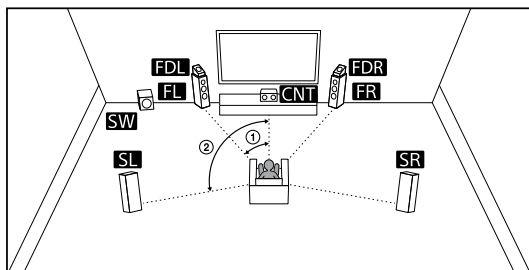


A モノラル音声ケーブル(別売)

B スピーカーケーブル(別売)

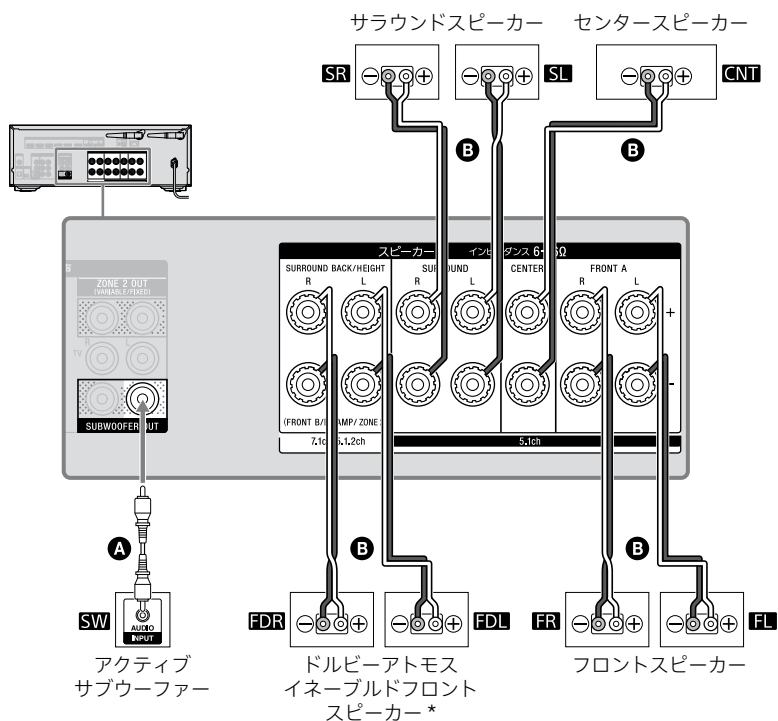
* 接続後、[スピーカー設定]の[スピーカーパターン]で[5.1.2 (TM)]を選んでください。

5.1.2チャンネルスピーカーシステム (ドルビーアトモスインネーブルドフロントスピーカー使用)



① 30°

② 100° ~ 120°

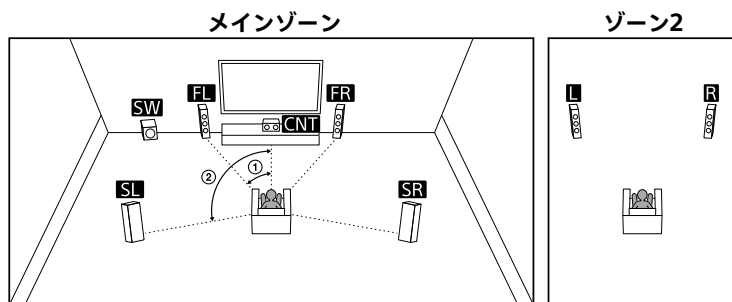


Ⓐ モノラル音声ケーブル(別売)

Ⓑ スピーカーケーブル(別売)

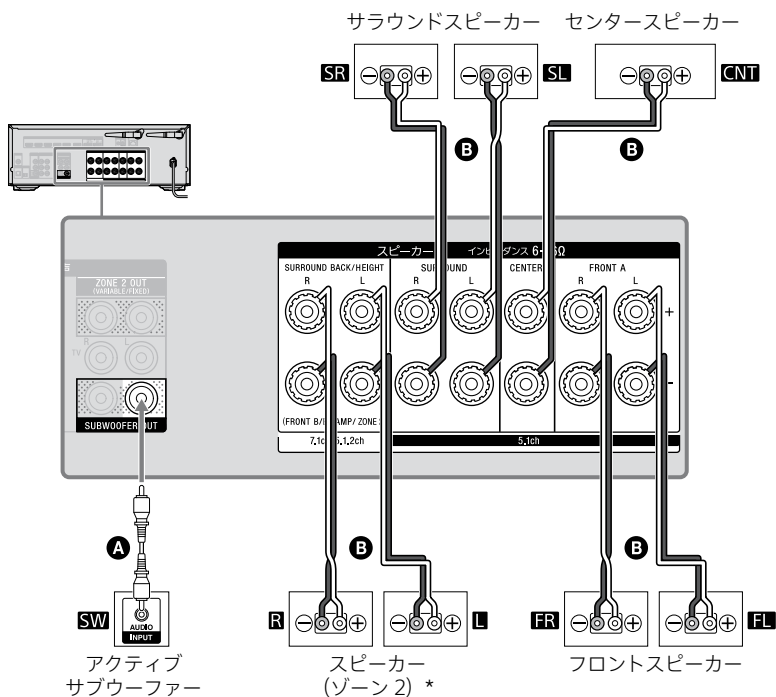
* 接続後、[スピーカー設定]の[スピーカーパターン]で[5.1.2 (FD)]を選んでください。

5.1チャンネルスピーカーシステム(ゾーン2スピーカー使用)



① 30°

② 100° ~ 120°



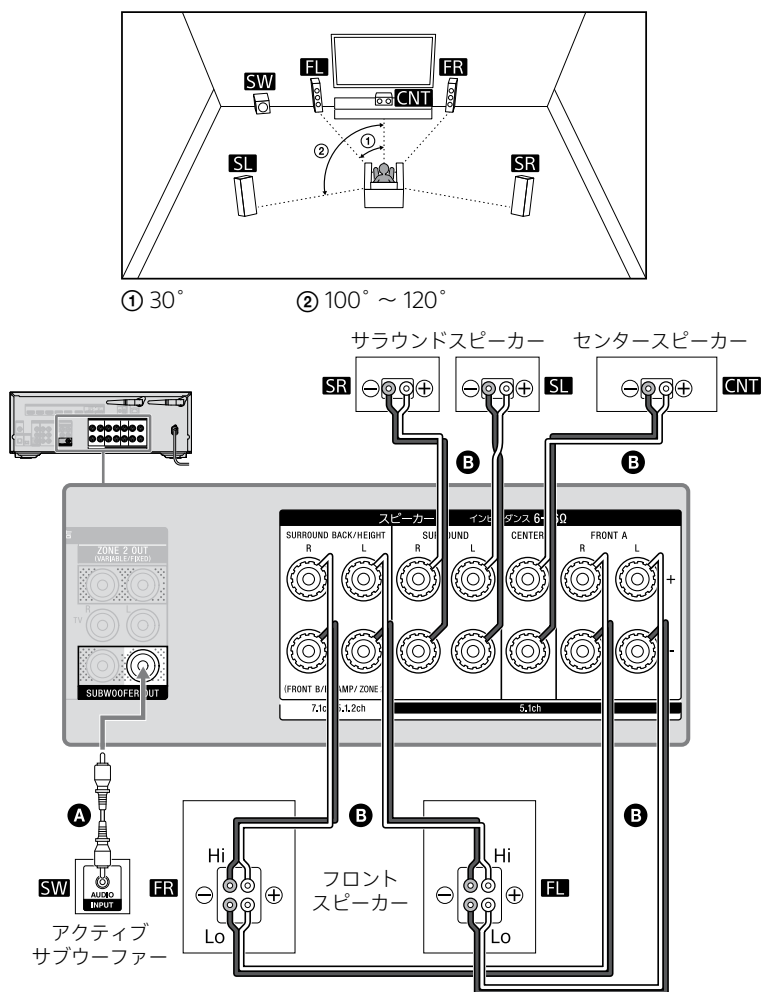
A モノラル音声ケーブル(別売)

B スピーカーケーブル(別売)

* ゾーン2スピーカーの使用方法について詳しくは、「他の部屋に設置したスピーカーからの音声を楽しむ(ゾーン2)」(41ページ)をご覧ください。

5.1チャンネルスピーカーシステム(バイアンプ接続)

フロントスピーカーが高域(ツイーター)用と低域(ウーファー)用それぞれの入力端子を備えたバイワイヤリング対応スピーカーの場合は、本機のフロント用とサラウンドバック用の2系統のスピーカー端子を利用してバイアンプ接続できます。ツイーターとウーファーを個別のアンプで駆動することによって、より高音質の再生を楽しむことができます。



A モノラル音声ケーブル(別売)

B スピーカーケーブル(別売)

本機の故障を防ぐため、スピーカーに取り付けられているHi/Loのショート金具を必ず外してください。接続後、[スピーカー設定]の[サラウンドバックスピーカー割り当て]を[バイアンプ]に設定してください。

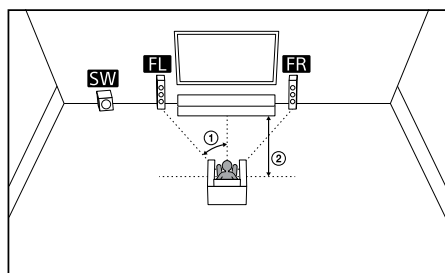
ご注意

スピーカーパターンをサラウンドバックおよびハイト/オーバーヘッドスピーカーを使わない設定にしたときのみ、[サラウンドバックスピーカー割り当て]を設定できます(17ページ)。

2.1チャンネルスピーカーシステム(フロントサラウンドを楽しむ)

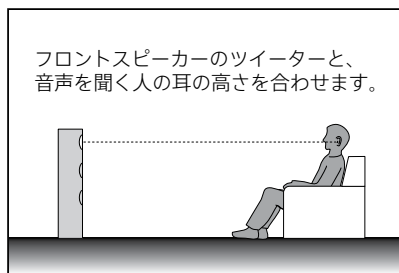
サウンドフィールドの設定で[フロントサラウンド]を選ぶと、2本のフロントスピーカーのみでバーチャルサラウンド効果を楽しめます。

フロントサラウンドを楽しむためには、以下のようにスピーカーを配置してください。



① 30°

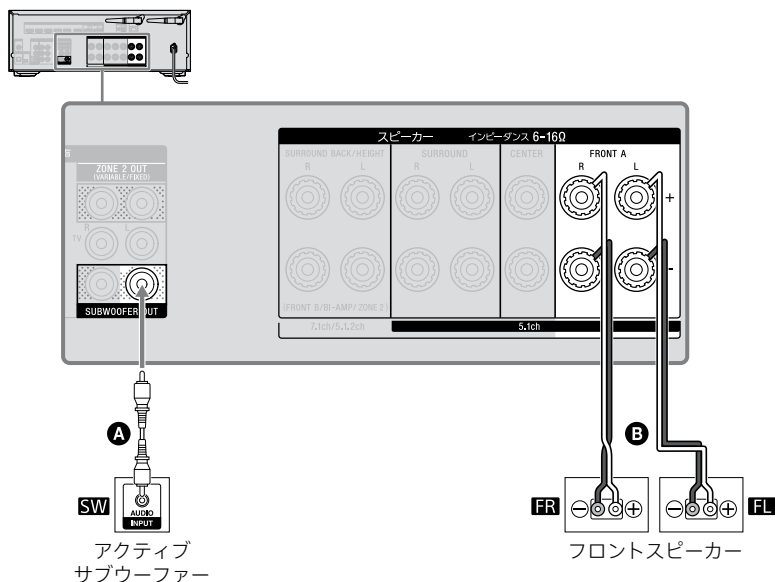
② 1.5 ~ 3 m



フロントスピーカーのツイーターと、
音声を聞く人の耳の高さを合わせます。

ちょっと一言

フロントスピーカーは少しずつ向きを変えてみて、サラウンド効果をより感じられる向きを探して調整してください。



Ⓐ モノラル音声ケーブル(別売)

Ⓑ スピーカーケーブル(別売)

テレビを接続する

テレビをHDMI OUT端子またはMONITOR OUT端子に接続します。

HDMI OUT端子に接続した場合のみ、テレビ画面にメニューが表示されます。本機の設定では多くの場合、メニューを使った操作が必要となりますので、HDMI OUT端子を使って接続することをおすすめします。

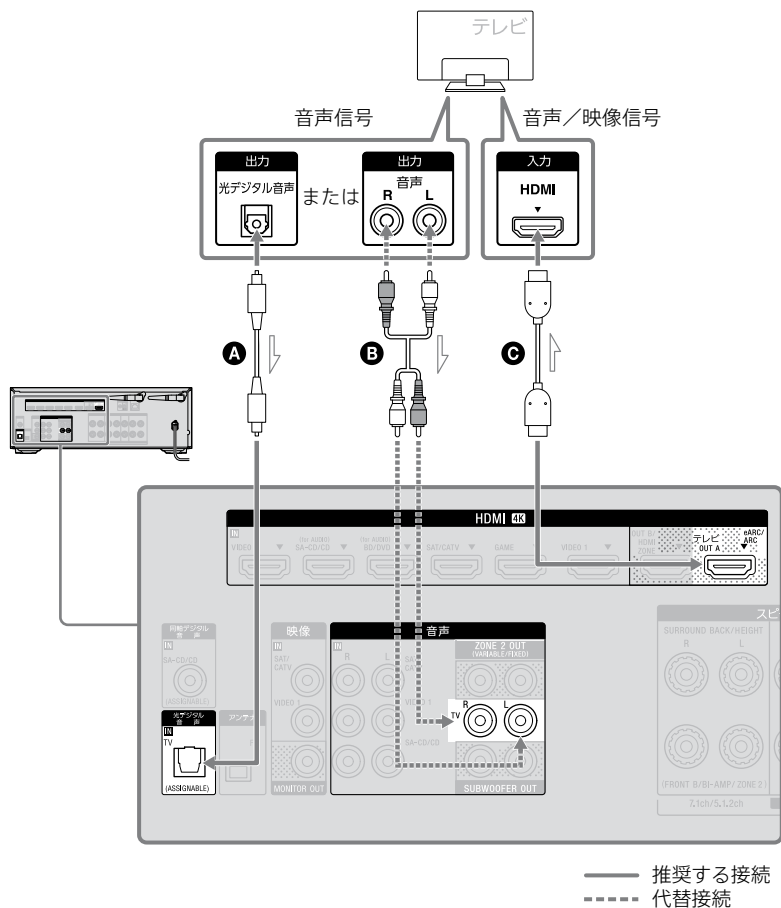
4Kテレビの接続については、ヘルプガイドをご覧ください。

接続についての注意事項

- ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。
- イーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。ソニー製のHDMIケーブルまたは他のHDMI認証を受けたケーブルのご使用をおすすめします。
4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル(イーサネット対応)をお使いください。
- 4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号を使う場合は、HDMI信号フォーマットの設定をしてください。詳しくは「HDMI信号フォーマットを設定する」(40ページ)をご覧ください。
- HDMI-DVI変換ケーブルはおすすめしません。HDMI-DVI変換ケーブルをDVI-D機器につないだ場合、音声と画像の両方、またはどちらかが失われることがあります。音声为正しく出力されないときは、音声ケーブルまたはデジタル接続ケーブルをそれぞれつなぎ、入力端子を設定し直してください。
- テレビとアンテナの接続状態によってはテレビ画面の画像が歪んで見えることがあります。その場合、本機からアンテナを離して置いてください。
- 光デジタル音声ケーブルをつなぐときは、カチッと音がするまでまっすぐにプラグを差し込んでください。
- 光デジタル音声ケーブルを折り曲げたり、結んだりしないでください。
- デジタル音声端子はサンプリング周波数32 kHz、44.1 kHz、48 kHzおよび96 kHzに対応しています。
- テレビを本機の音声IN TV端子につなぐ場合は、テレビの音声出力端子に「固定」または「可変」の設定があるときは、「固定」に設定してください。
- テレビをHDMI OUT B/HDMI ZONE端子につなぐ場合、[HDMI設定]の[HDMI出力Bモード]を[メイン]に設定します。[HDMI出力Bモード]が[ゾーン]に設定されている場合は、ホームメニューはテレビ画面には表示されません。

HDMI接続でeARCおよびARC機能非対応のテレビをつなぐ

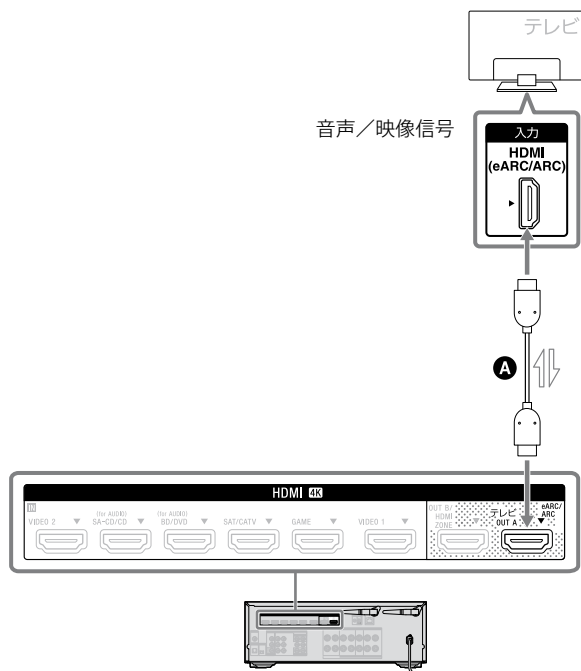
HDMIケーブル**C**で接続することによって、テレビへ音声／映像信号を出力できます。ただし、本機に接続したスピーカーからテレビの音声出力するためには、光デジタル音声ケーブル**A**または音声ケーブル**B**での接続も必要です。



- A** 光デジタル音声ケーブル(別売)
- B** 音声ケーブル(別売)
- C** HDMIケーブル(別売)

HDMI接続でeARCまたはARC機能対応のテレビをつなぐ

1本のHDMIケーブルをつなぐだけで、本機に接続したスピーカーからテレビの音声を聞くことができます。HDMIケーブルがテレビへの音声／映像信号の出力とテレビからの音声信号の入力を同時に行います。



A HDMIケーブル(別売)

ご注意

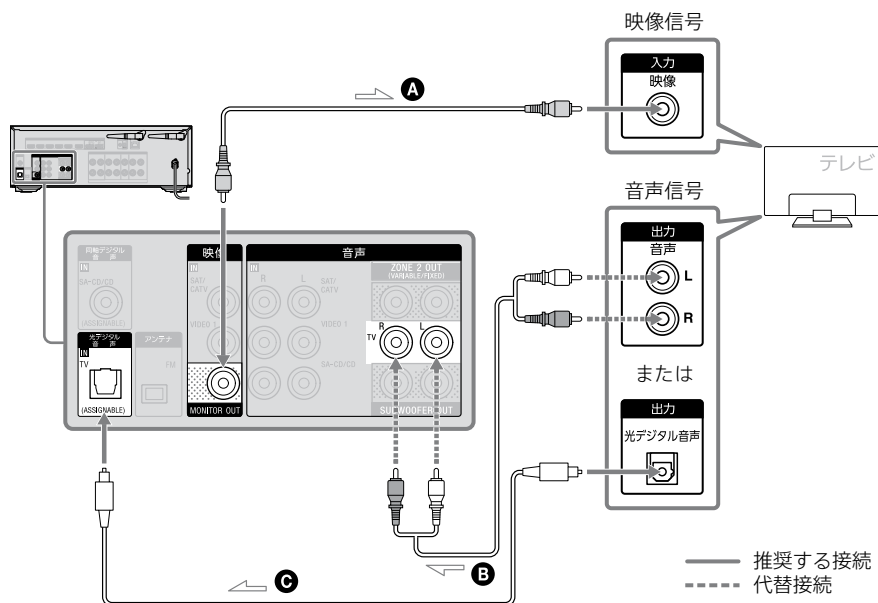
- この接続をする場合は、HDMI機器制御機能をオンにする必要があります。HOMEボタンを押して、[Setup] - [HDMI設定] - [HDMI機器制御] - [入]の順に選んでください。
 - テレビ側も設定する必要があります。eARCまたはARC機能をオンにしてください。
 - 本機のHDMIテレビOUT A端子の表示が「ARC」の場合は、ソフトウェアアップデートを行ってください。詳しくは「ソフトウェアのアップデートをする」(52ページ)をご覧ください。
- HDMIテレビOUT A端子の表示が「eARC/ARC」の場合は、ソフトウェアはeARC機能に対応しています。

ちょっと一言

テレビのHDMI端子(「eARC」または「ARC」表示のある端子)がすでに他の機器に接続されている場合は、他の機器を外し、本機に接続し直してください。

HDMI端子を使わずにテレビをつなぐ

映像ケーブル **A** の接続に加え、光デジタル音声ケーブル **C** または音声ケーブル **B** での接続が必要です。



- A** 映像ケーブル(別売)
B 音声ケーブル(別売)
C 光デジタル音声ケーブル(別売)

ご注意

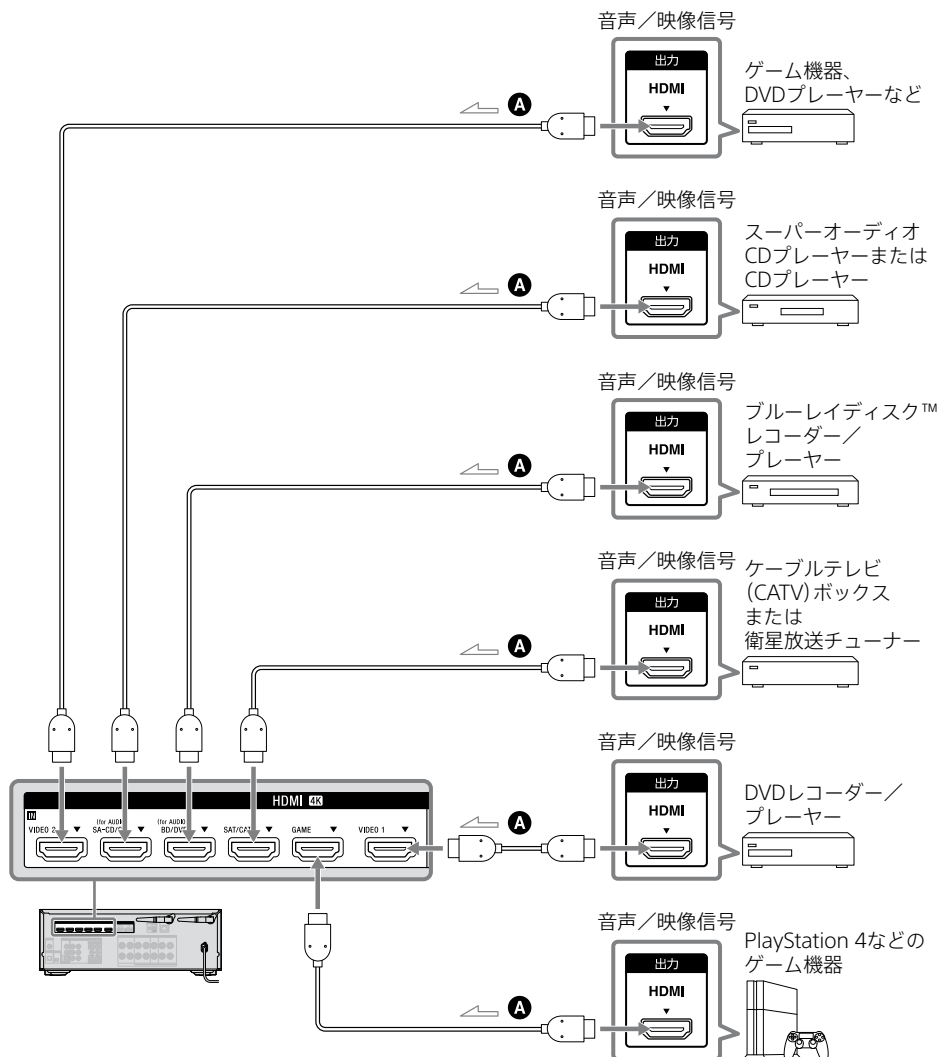
- 上記の接続を行った場合は、映像IN端子につないだ機器からの映像のみテレビ画面に表示されます。
- 上記の接続を行った場合は、メニュー表示ができません。メニューを使って操作するには、HDMI接続が必要です。

AV機器を接続する

HDMI端子を使って機器を接続する

ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。

本機のHDMI IN端子はHDCP 2.2に対応しています。4KコンテンツなどのHDCP 2.2で保護されたコンテンツを見るときは、これらのHDMI IN端子と再生機器のHDCP 2.2対応HDMI端子をつなぎます。詳しくは、各接続機器の取扱説明書をご覧ください。



A HDMIケーブル(別売)

ご注意

HDMI IN VIDEO 1端子は9 Gbpsまでの帯域幅に対応しています。

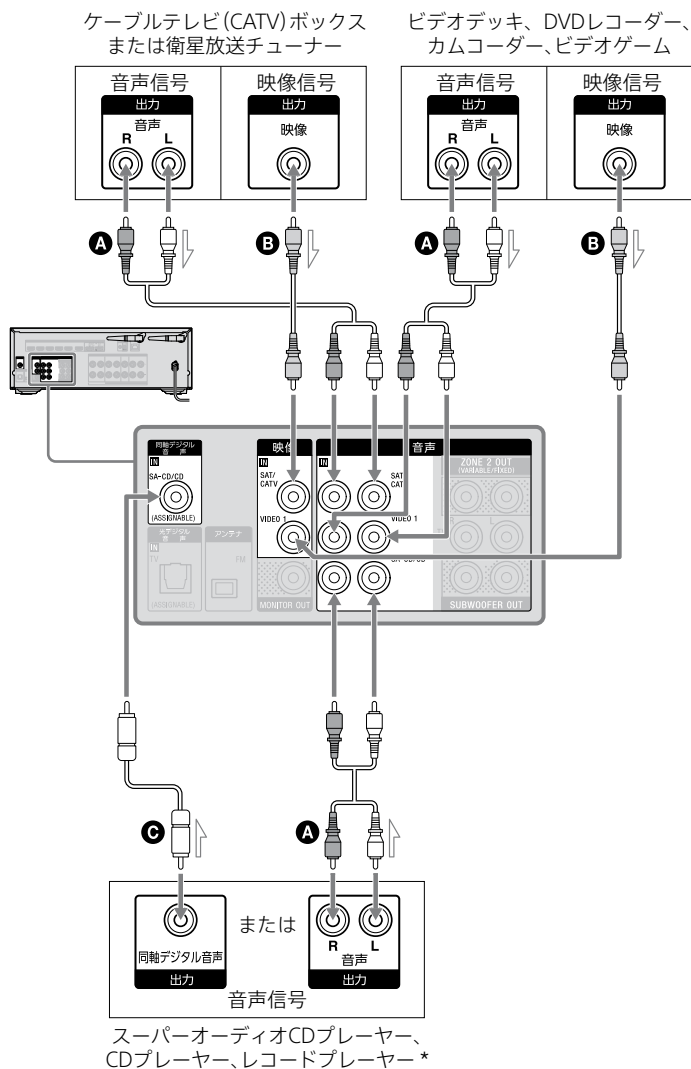
お使いの機器が4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号に対応している場合は、HDMI IN VIDEO 1端子以外のHDMI IN端子に接続してください。

ちょっと一言

- この接続は一例です。各HDMI機器はどのHDMI IN端子にもつながることができます。
- BD/DVDおよびSA-CD/CD入力では、より良い音質が得られます。より高品質な音声を楽しむには、お使いの機器をこれらのHDMI IN端子につなぎ、BD/DVDまたはSA-CD/CDを入力を選んでください。
- 画質は接続端子の種類によって異なります。お使いの機器にHDMI出力端子がある場合は、HDMI接続することをおすすめします。

HDMI端子以外の端子を使って機器を接続する

ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。



- A 音声ケーブル (別売)
- B 映像ケーブル (別売)
- C 同軸デジタル音声ケーブル (別売)

* フォノ (PHONO) 出力端子しかないレコードプレーヤーを接続する場合は、レコードプレーヤーと本機の間にはフォノイコライザー (別売) をつなぐ必要があります。

ご注意

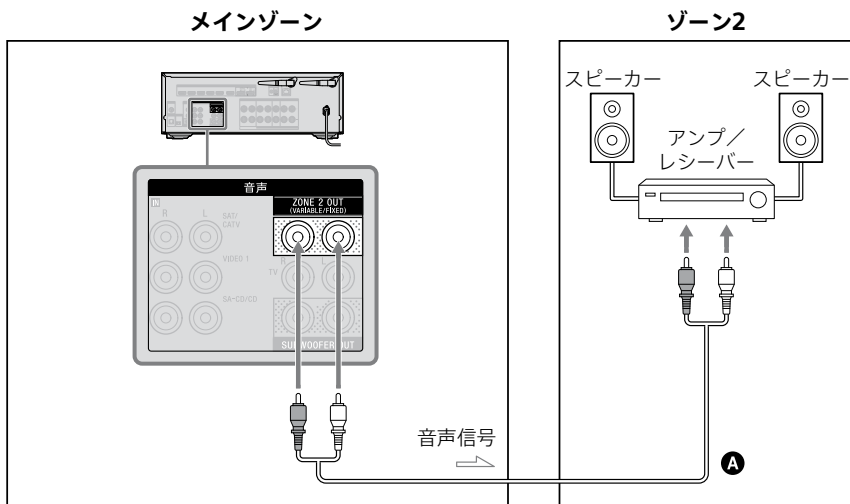
音声IN端子につないだ機器の音声を聞く場合は、同じ機器名 (SAT/CATV、TV、VIDEO 1、SA-CD/CD など) が記されているHDMI IN端子および同軸デジタル音声IN / 光デジタル音声IN端子には何もつながないでください。

ちょっと一言

- 音声INの各端子 (SAT/CATV、VIDEO 1、SA-CD/CD) には、表示されている以外の機器も接続することができます。
- それぞれの入力の名前を変えて本機の表示窓に表示させることもできます。詳しくはヘルプガイドの「各入力の名前を変更する (名前)」をご覧ください。

ゾーン2に設置したもう1台のアンプを接続する

ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。



A 音声ケーブル (別売)

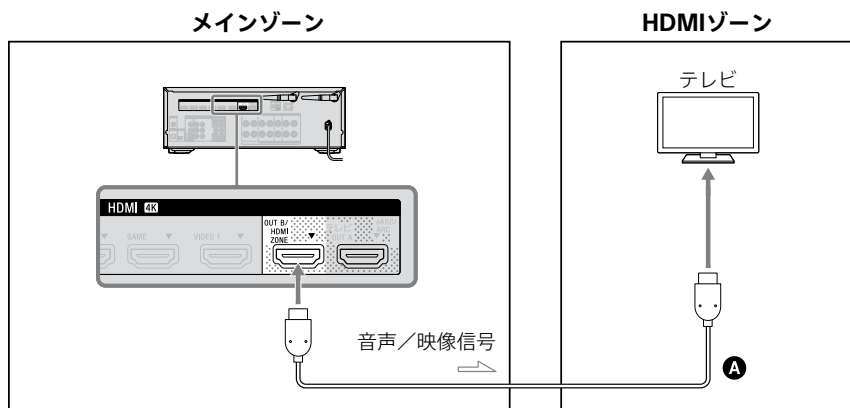
ご注意

- [USB]、[Bluetooth] (Bluetoothモードを[受信]に設定したときのみ)、[Home Network]、[Music Service List] および [FM TUNER] の音声と本体後面の音声IN端子から入力された音声のみ、ゾーン2のスピーカーから出力されます。
- 光デジタル音声IN端子および同軸デジタル音声IN端子、HDMI IN端子からの外部デジタル入力は、ゾーン2のスピーカーから出力できません。
- [音声設定] の [DSDネイティブ再生] を [入] に設定すると、[USB] および [Home Network] のDSDコンテンツの音声はゾーン2のスピーカーからは出力されません。

HDMIゾーンの他のアンプまたはテレビに接続する

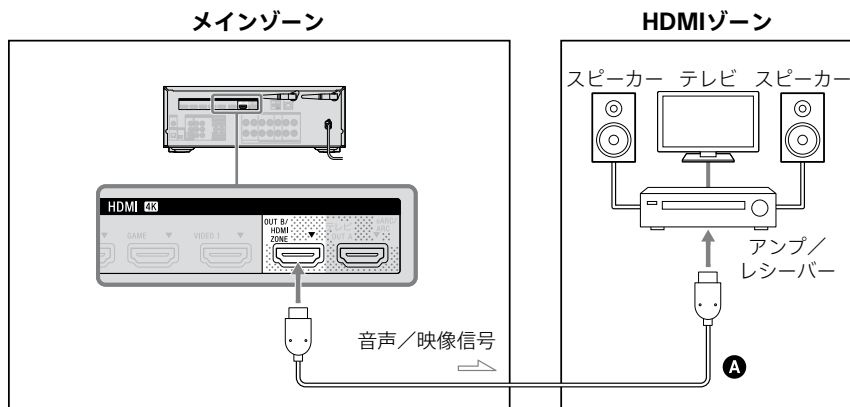
ケーブルをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。

HDMIゾーンのテレビにのみつなぐ場合



A HDMIケーブル(別売)

HDMIゾーンの他のアンプにつなぐ場合



A HDMIケーブル(別売)

ご注意

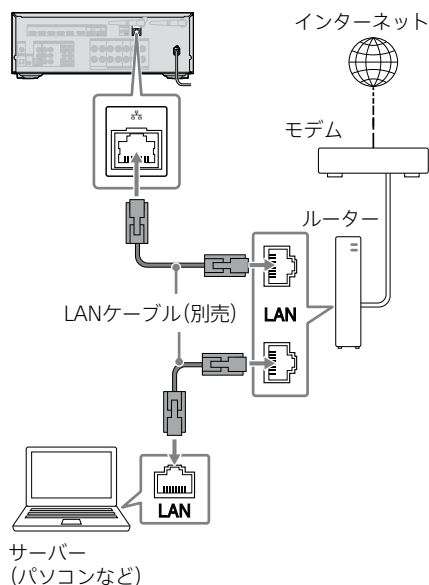
この接続をする場合は、[HDMI設定]メニューの[HDMI出力Bモード]を[ゾーン]に設定します。

ネットワークに接続する

お使いのLAN (Local Area Network) 環境に応じて接続方法を選びます。
下図は本機とサーバーを使ったホームネットワークの構成例です。

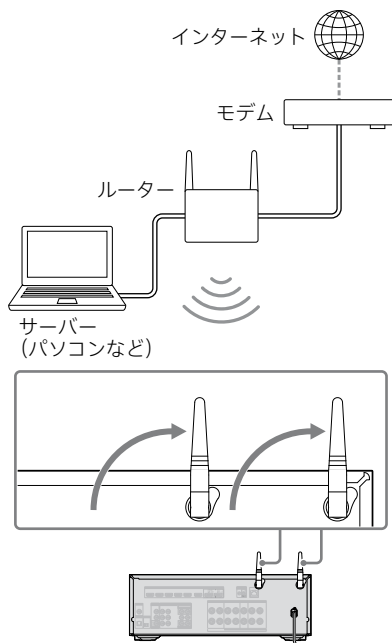
有線LAN接続で使用するには

LANケーブル* (別売) を使って本機をネットワークに接続します。



* カテゴリー 7 のケーブルをおすすめします。

無線LAN接続で使用するには



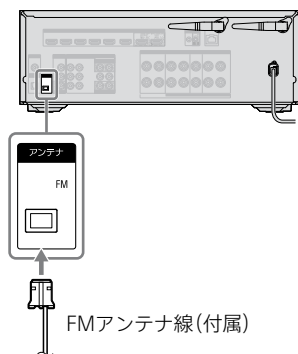
ご注意

- 無線接続の場合、サーバー上の音声再生が途切れる場合があります。
- 無線接続時は、良好な接続状態を得るために、無線LANアンテナを2本とも立ててのご使用をおすすめします。

準備する

アンテナを接続する

アンテナをつなぐ前に、必ず電源コードを抜いてください。



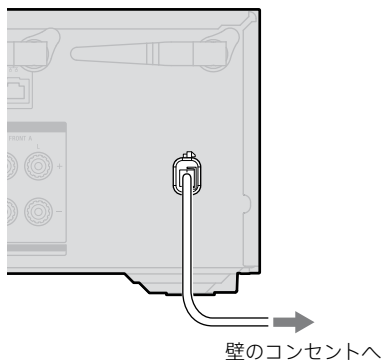
ご注意

- FMアンテナ線を完全に伸ばしてください。
- FMアンテナ線は、できるだけ水平になるように設置してください。

電源を入れる

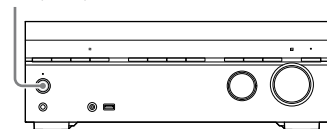
電源コードをつなぐ前に、スピーカーや他の機器が接続されていることを確認してください。

1 電源コードをコンセントにつなぐ。



2 ㊦ (電源) ボタンを押して本機の電源を入れる。

㊦ (電源) ボタン



リモコンの ㊦ (電源) ボタンを押して本機の電源を入れることもできます。電源を切るときは、もう一度 ㊦ (電源) ボタンを押します。

かんたん設定を使って 初期設定を行う

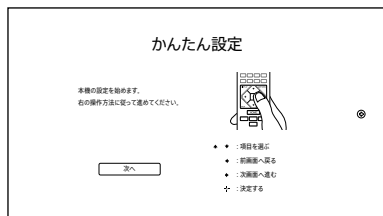
本機の初期設定を行うには、あらかじめHDMIケーブルでテレビに接続し(26ページ)、テレビの入力を本機を接続した入力に切り替えます。

ご注意

表示窓の表示を使ってかんたん設定の操作はできません。

本機の電源を初めて入れたときや初期化後に電源を入れたときには、テレビ画面にかんたん設定画面が表示されます。

▲/▼/←/→ボタンおよび[Enter]ボタンを使い、画面の指示に従って初期設定を行ってください。



かんたん設定画面が表示されない場合、手動で表示させるには、HOMEボタンを押して[Setup] - [かんたん設定]を選びます。



かんたん設定でできること

かんたん設定を行うことで以下の設定ができます：

1: スピーカー設定

お使いのスピーカーシステムを確認し、スピーカー構成と配置に応じて自動音場補正を行います。

2: ネットワーク設定

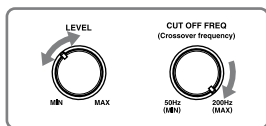
ネットワークへの接続方法を選択し、ネットワークに接続するための設定を行います。

自動音場補正(D.C.A.C. EX)を行う

自動音場補正を行う前に

- ヘッドホンを抜いてください。
- 測定用マイクとスピーカー間の障害物を取り除いてください。
- [Bluetoothモード]が[送信]に設定されている場合は自動音場補正をすることはできません。
- 正しい測定をするために、周囲の環境が静かであること、騒音がないことを確認してください。
- スピーカー出力を「SPK OFF」以外の設定にしてください。「フロントスピーカーを選ぶ」(39ページ)をご覧ください。

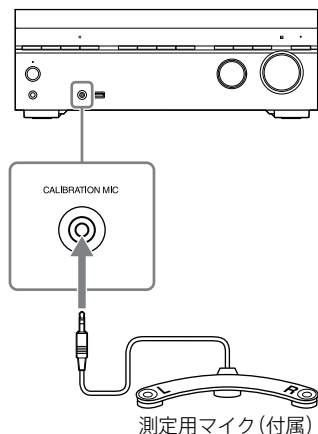
- アクティブサブウーファーの設定を確認してください。
 - アクティブサブウーファーを使用する前に、電源を入れてアクティブサブウーファーの音量を上げます。音量は、ボリューム (LEVEL) つまみを半分よりやや小さめの位置にしてください。
 - クロスオーバー周波数機能付のアクティブサブウーファーをつないでいる場合は、設定値を最大にしてください。
 - オートスタンバイ機能付のアクティブサブウーファーをつないでいる場合は、オフ (無効) に設定してください。



ご注意

お使いのアクティブサブウーファーの特性によっては、距離の設定値が実際の位置と異なることがあります。

- CALIBRATION MIC端子に付属の測定用マイクを接続します。視聴位置に測定用マイクを設置して、測定用マイクが耳の位置と同じ高さになるようにしてください。



ご注意

- 測定用マイクのプラグは、CALIBRATION MIC端子の奥までしっかり差し込んでください。測定用マイクがしっかりつなげていないと、正しく測定できないことがあります。
- 測定用マイクは、L (左) と R (右) が同じ高さになるよう水平に設置してください。
- 補正中はスピーカーから大きな音が出ますが、音量を調節することはできません。自動音場補正を実行するときは、隣近所や周囲の子供に充分配慮してください。
- 自動音場補正を行う前にミュート (消音) 機能がオンになっているときは、ミュート (消音) 機能が自動的に解除されます。
- ダイポールなどの特殊なスピーカーが使われている場合は、正しい測定ができなかったり、自動音場補正ができなかったりすることがあります。
- 測定が失敗した場合は、メッセージに従い、[リトライ]を選びます。エラーコードおよび警告メッセージの詳細については、「自動音場補正測定後のメッセージリスト」(57ページ)をご覧ください。

自動音場補正をキャンセルするには

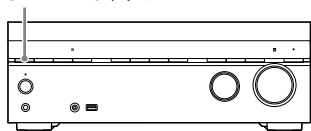
測定中に以下の操作を行うと自動音場補正の測定がキャンセルされます。

- 電源 (電源) ボタンを押す。
- リモコンの入力切り替え用ボタンを押す、または本体前面のINPUT SELECTORつまみを回す。
- リモコンのHOMEボタン、AMP MENUボタン、HDMI OUTボタンまたはmute (消音) ボタンを押す。
- 本体前面のSPEAKERSボタンを押す。
- 音量を調節する。
- PHONES端子にヘッドホンをつなぐ。
- リモコンまたは本体前面のMUSICボタンを押す。

自動音場補正について詳しくは、ヘルプガイドをご覧ください。

フロントスピーカーを選ぶ

SPEAKERSボタン



SPEAKERSボタンを繰り返し押す

どの端子が選ばれているか表示窓のインジケーターで確認できます。

- **SPA** : スピーカー FRONT A端子に接続したスピーカー。
- **SPB*** : スピーカー SURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 2) 端子に接続したスピーカー。
- **SPA+B*** : スピーカー FRONT Aとスピーカー SURROUND BACK/HEIGHT (FRONT B/BI-AMP/ZONE 2) 端子の両方に接続したスピーカー (パラレル接続)。
- (表示なし) : 「SPK OFF」と表示窓に表示されます。どのスピーカー端子からも音声信号は出力されません。

* 「SPB」または「SPA+B」を選ぶには、[スピーカー設定]の[サラウンドバックスピーカー割り当て]を[フロントB]に設定してください。

ご注意

ヘッドホンを接続しているときはこの設定はできません。

映像や音声を楽しむ

映像や音声を楽しむ

AV機器を再生する／FMラジオを聞く

AV機器を本機に接続して、映像や音声などのさまざまなコンテンツを楽しむことができます。

また、内蔵のFMチューナーで、高音質のFMラジオ放送を楽しむことができます。

1 再生したい機器の電源を入れる。

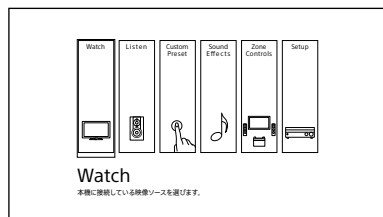
2 テレビの電源を入れ、テレビの入力を本機をつないでいるHDMI入力に切り替える。

3 本機の電源を入れる。

4 HOMEボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

テレビによっては、ホームメニューが表示されるまでに時間がかかることがあります。



5 ◀/▶ ボタンを押して[Watch]または[Listen]を選び、⏏ ボタンを押す。

メニュー項目のリストが表示されます。

6 再生したい機器を選び、再生を開始する。

[FM TUNER]を選んだ場合は、テレビ画面で説明されているリモコンのボタンを使って好みの放送局の周波数に合わせてください。操作について詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

7 ◀ +/- ボタンを押して音量を調節する。

本体前面のMASTER VOLUMEつまみを使うこともできます。

ご注意

次に電源を入れたときに、大きな音が出てスピーカーを破損しないように、本機の電源を切るときは音量を下げてください。

ちょっと一言

- 本体前面のINPUT SELECTORつまみを回すか、リモコンの入力切り替え用ボタンを押して使いたい機器を選ぶこともできます。
- 音量をすばやく上げ下げするには以下の操作を行います。
 - 本体前面のMASTER VOLUMEつまみをすばやく回す。
 - ◀ +/- ボタンのいずれかを押したままにする。
- 音量を微調整するには以下の操作を行います。
 - 本体前面のMASTER VOLUMEつまみをゆっくり回す。
 - ◀ +/- ボタンのいずれかを短く押す。

HDMI信号フォーマットを設定する

HDMI入力端子に接続した機器からの映像信号に応じて、HDMIの信号フォーマットを選ぶことができます。

1 HOMEボタンを押して、[Setup] - [HDMI設定] - [HDMI信号フォーマット]の順に選ぶ。

2 フォーマットを選ぶ。

- [標準フォーマット]：拡張フォーマットを使わない場合に選びます。
- [拡張フォーマット]：4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなどの高精細な4Kフォーマット信号を使う場合に選びます。

ご注意

- 対応する映像フォーマットの詳細についてはヘルプガイドをご覧ください。
- [拡張フォーマット]を選んだ場合は、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル(イーサネット対応)をお使いください。
- [拡張フォーマット]を選んだ後に、画面に異常が表れた場合は、[標準フォーマット]に設定してください。
- お使いのテレビによっては、テレビ側の設定変更が必要になる場合があります。
- HDMI IN VIDEO 1端子は4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitに対応していないため、HDMI信号フォーマットの設定はできません。

他の部屋に設置したスピーカーからの音声を楽しむ(ゾーン2)

1 ゾーン2に配置したスピーカーをつなぐ(23ページ)。

2 本機の電源を入れる。

3 スピーカーパターンを選び、スピーカー端子の割り当てを設定する。

- ① HOMEボタンを押して、[Setup] - [スピーカー設定] - [スピーカーパターン]の順に選ぶ。
- ② サラウンドバックスピーカーのないスピーカーパターンを選び、[保存]を選ぶ。

- ③ [サラウンドバックスピーカー割り当て]を[ゾーン2]に設定する。

4 HOMEボタンを押して[Zone Controls]を選ぶ。

5 [ゾーン2機能]を[入]に設定する。

本体前面のZONE SELECTボタンを繰り返し押しして「ZONE2 ON ?」を選び、ZONE POWERボタンを押しても設定できます。

6 [ゾーン2入力]を選び、出力したいソース信号を選ぶ。

表示窓に「2. XXXX」*と表示されている間に、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回して選ぶこともできます。

ちょっと一言

ゾーン2でメインゾーンと同じ音声を聞きたいときは、[SOURCE]を選んでください。

7 選んだ入力機器の再生を開始する。

8 [ゾーン2音量]を選んで、音量を調節する。

表示窓に「2. XXXX」*と表示されている間に、本体前面のMASTER VOLUMEつまみを回して選ぶこともできます。

* 「XXXX」は入力名です。

ゾーンの操作を終了するには

手順5で[ゾーン2機能]を[切]に設定します。

ご注意

- [USB]、[Bluetooth] (Bluetoothモードを[受信]に設定したときのみ)、[Home Network]、[Music Service List]および[FM TUNER]の音声と本体後面の音声IN端子から入力された音声のみ、ゾーン2に設置したスピーカーに出力されます。

- 光デジタル音声INおよび同軸デジタル音声IN、HDMI IN端子からの外部デジタル入力、ゾーン2には出力できません。
- [音声設定]の[DSDネイティブ再生]を[入]に設定すると、[USB]および[Home Network]のDSDコンテンツの音声はゾーン2のスピーカーからは出力されません。

もう1台のアンプを使って他の部屋に設置したスピーカーからの音声を楽しむ(ゾーン2)

- 1 ゾーン2に設置したもう1台のアンプをつなぐ(33ページ)。
- 2 メインゾーンにある本機とゾーン2にあるアンプの電源を入れる。
- 3 ゾーン2の音量調節の設定をする。
HOMEボタンを押して、[Setup]
- [ゾーン設定] - [ゾーン2音声出力モード]の順に選び、[可変]または[固定]を選んでください。
 - [可変]：ZONE 2 OUT端子からの音量を変えることができます。この設定はゾーン2のアンプで音量調整できない場合に選びます。
 - [固定]：ZONE 2 OUT端子からの音量を変えることはできません。この設定はゾーン2のアンプで音量調整を行う場合に選びます。
- 4 HOMEボタンを押して、[Zone Controls] - [ゾーン2機能] - [入]の順に選ぶ。
本体前面のZONE SELECTボタンを繰り返し押し「ZONE2 ON ?」を選び、ZONE POWERボタンを押しても設定できます。

5 [ゾーン2入力]を選び、出力したいソース信号を選ぶ。

表示窓に「2. XXXX」*と表示されている間に、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回して選ぶこともできます。

ちょっと一言

ゾーン2でメインゾーンと同じ音声を聞きたいときは、[SOURCE]を選んでください。

6 選んだ入力機器の再生を開始する。

7 音量を調節する。

ゾーン2にあるアンプを使って音量を調節します。

手順3で[ゾーン2音声出力モード]を[可変]に設定している場合は、[ゾーン2音量]を選んで音量を調節します。表示窓に「2. XXXX」*と表示されている間に、本体前面のMASTER VOLUMEつまみを回して選ぶこともできます。

* 「XXXX」は入力名です。

ゾーンの操作を終了するには

手順4で[ゾーン2機能]を[切]に設定します。

テレビまたはもう1台のアンプを使って他の部屋で映像や音声を楽しむ(HDMIゾーン)

- 1 他の部屋にあるアンプまたはテレビをつなぐ(34ページ)。
- 2 メインゾーンにある本機とHDMIゾーンにあるアンプとテレビの電源を入れる。

3 HDMI OUT B/HDMI ZONE端子の設定を[ゾーン]にする。

HOMEボタンを押して、[Setup] - [HDMI設定] - [HDMI出力Bモード] - [ゾーン]の順に選びます。

4 HOMEボタンを押して、[Zone Controls] - [HDMIゾーン機能] - [入]の順に選ぶ。

本体前面のZONE SELECTボタンを繰り返し押して「HDMI ON ?」を選び、ZONE POWERボタンを押しても設定できます。

5 [HDMIゾーン入力]を選び、出力したいソース信号を選ぶ。

表示窓に「H. XXXX」*と表示されている間に、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回して選ぶこともできます。

*「XXXX」は入力名です。

6 HDMIゾーンにあるアンプまたはテレビで音量を調節する。

ちょっと一言

- [HDMI設定]の[HDMI出力優先端子]を[メイン]に設定すると、メインゾーンの信号に対する干渉を防ぐことができます。HDMIゾーンでメインゾーンと同じ入力を選んでいるときは、HDMIゾーンから映像または音声は出力されません。設定方法の詳細については、ヘルプガイドの「メインゾーンのHDMI出力の優先度を設定する(HDMI出力優先端子)」をご覧ください。
- [HDMI設定]の[HDMI出力Bモード]を[ゾーン]に設定して使用する場合、HDMI OUT B/HDMI ZONE端子が対応する帯域幅は9 Gbpsまでになります。

HDMIゾーンでの視聴を終了するには

手順4で[HDMIゾーン機能]を[切]に設定します。

各ゾーンで視聴できる入力

選んだゾーンによって視聴できる入力異なります。テレビ画面または表示窓で使いたい入力を選びます。利用できる入力の詳細については、ヘルプガイドの「各ゾーンで視聴できる入力」をご覧ください。

メインゾーンについて

メインゾーンでは、本機につないだすべての機器からの入力を選べます。

ゾーン2について

ゾーン2では映像を見ることはできません。HDMI IN端子に接続した機器からの音声は出力されません。

ご注意

- HDMI IN、または光デジタル音声 IN、同軸デジタル音声 IN端子からの信号はゾーン2のスピーカーには出力されません。
- メインゾーンおよびゾーン2から[USB]または[Home Network]、[Music Service List]、[Bluetooth]を選ぶことができます。どちらかのゾーンでいずれかの入力を選ばれている場合でも、最後に選んだ入力が優先されます。
- 接続機器を再生中で、ゾーン2の現在の入力が[USB]または[Home Network]、[Music Service List]の場合、BLUETOOTHヘッドホンをメインゾーンに接続すると、ゾーン2の入力は[SOURCE]に切り替わります。この場合、FMチューナーとアナログ音声信号のみがゾーン2に出力されます。
- 接続機器を再生中で、BLUETOOTHヘッドホンをメインゾーンに接続している場合、ゾーン2で[USB]または[Home Network]、[Music Service List]を選択すると、BLUETOOTHヘッドホンの接続が解除されます。
- [音声設定]の[DSDネイティブ再生]を[入]に設定すると、[USB]および[Home Network]のDSDコンテンツの音声はゾーン2のスピーカーからは出力されません。

HDMIゾーンについて

HDMI IN端子(VIDEO 1以外)から入力される映像や音声のみ視聴できます。

音響効果を楽しむ

音場を選ぶ(サウンドフィールド)

お使いのスピーカー構成や音声(コンテンツ)、またはお好みに合わせてサウンドフィールドを選ぶことができます。これにより、音場効果が付加されたサウンドを楽しむことができます。

1 HOMEボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 [Sound Effects] - [サウンドフィールド]を選ぶ。

3 ◀/▶ ボタンを押して、お好みのサウンドフィールドを選び、**[+]** ボタンを押す。

映画には、[Movie]と名前の付いているサウンドフィールド、音楽には、[Music]と名前の付いているサウンドフィールドをおすすめします。

各サウンドフィールドについての詳細は「選べるサウンドフィールドとその効果」(47ページ)をご覧ください。

ご注意

- [Bluetoothモード]が[送信]に設定されている場合や、ワイヤレスマルチルーム機能を使っているときはサウンドフィールドは選べません。
- Chromecast built-inを使って音楽を再生しているときは、リモコンまたは本体前面の2CH/MULTIボタンでのみ[マルチチャンネルステレオ]または[2chステレオ]を選べます。他のサウンドフィールドは選べません。

- PHONES端子にヘッドホンをつなぐと、自動的に[ヘッドホン(2ch)]に切り替わります。
- 入力やスピーカーパターンの設定、または音声フォーマットによっては、映画用および音楽用のサウンドフィールドが機能しない場合があります。
- 音声フォーマットによっては、本機は実際の入力信号のサンプリング周波数よりも低いサンプリング周波数で信号を再生する場合があります。
- サウンドフィールドの設定によっては、スピーカーまたはアクティブサブウーファークラから音声出力されない場合があります。
- [USB]、[Home Network]、[Music Service List] (Spotify Connectによる音楽再生)および[Bluetooth]以外の入力を選んでいるときは、オーディオエンハンサー (A. ENHANCER)は選べません。

ちょっと一言

以下の方法でもサウンドフィールドを選ぶことができます。

- HOMEボタンを押して、[Setup] - [音声設定] - [サウンドフィールド]の順に選ぶ。
- リモコンの2CH/MULTIボタンまたはMOVIEボタン、MUSICボタン、FRONT SURROUNDボタンを押す。
- 本体前面の2CH/MULTIボタンまたはMOVIEボタン、MUSICボタンを押す。

サウンドフィールドとスピーカー出力の関連性

下の表は、選んだサウンドフィールドによってどのスピーカーから音声出力されるかを示しています。

2chコンテンツ

サウンドフィールド		表示窓の表示	フロント スピー カー	センター スピー カー	サラウン ドスピー カー	サラウン ドバック スピー カー	アクティ ブサブ ウー ファー	ハイトス ピーカー
2CH/ MULTI	2chステレオ	2CH STEREO	◎	—	—	—	—	—
	マルチチャンネル ステレオ	MULTI ST.	◎	○	○	○	○ ¹⁾	○
	ダイレクト (アナログ入力)	DIRECT	◎	—	—	—	—	—
	ダイレクト (その他)	DIRECT	◎	—	—	—	○ ²⁾	—
	A.F.D. (Auto Format Decoding)	A.F.D.	◎	●	●	●	○ ²⁾	● ³⁾
MOVIE	Dolby Surround	DOLBY SURR	◎	○	○	○	○ ¹⁾	○
	Neural:X	NEURAL:X	◎	○	○	○	○ ¹⁾	○ ⁴⁾
	フロント サラウンド	FRONT SUR.	◎	—	—	—	○ ¹⁾	—
MUSIC	オーディオ エンハンサー	A. ENHANCER	◎	—	—	—	○ ²⁾	—

—：音声出力されません。

◎：音声出力されます。

○：スピーカーパターンの設定および再生コンテンツによっては音声出力されます。

●：ドルビー系ストリームとDTS系ストリームの場合は、スピーカーパターンの設定によって音声出力されます。

リニアPCM、DSD、AACの場合は音声出力されません。

- 1) アクティブサブウーファーが接続されていて、アクティブサブウーファーありのスピーカーパターン([x.1])が設定されているとき、音声出力されます。
- 2) アクティブサブウーファーが接続され、アクティブサブウーファーありのスピーカーパターン([x.1])が設定されていて、かつ[スピーカー設定]の[サイズ]が[小]のとき、音声出力されます。
- 3) DTS系ストリームの場合は、スピーカーパターンを[5.1.2 (TM)]、[5.1.2 (FD)]または[5.1.2 (SRD)]に設定すると音声出力されません。
- 4) スピーカーパターンを[5.1.2 (TM)]、[5.1.2 (FD)]または[5.1.2 (SRD)]に設定すると音声出力されません。

マルチチャンネルコンテンツ

サウンドフィールド		表示窓の表示	フロント スピー カー	センタ スピー カー	サラウン ドスピー カー	サラウン ドバック スピー カー	アクティ ブサブ ウー ファー	ハイトス ピーカー
2CH/ MULTI	2chステレオ	2CH STEREO	◎	—	—	—	—	—
	マルチチャンネル ステレオ	MULTI ST.	◎	○	○	○	○	○ ¹⁾
	ダイレクト	DIRECT	◎	○	○	○	○	○ ¹⁾
	A.F.D. (Auto Format Decoding)	A.F.D.	◎	○	○	○	○	○ ¹⁾
MOVIE	Dolby Surround	DOLBY SURR	◎	○	○	○	○	○
	Neural:X	NEURAL:X	◎	○	○	○	○	○ ²⁾
	フロント サラウンド	FRONT SUR.	◎	—	—	—	○	—
MUSIC	オーディオ エンハンサー	A. ENHANCER	◎	○	○	○	○	○ ¹⁾

—：音声が出力されません。

◎：音声が出力されます。

○：スピーカーパターンの設定および再生コンテンツによっては音声が出力されます。

¹⁾ DTS系ストリームの場合は、スピーカーパターンを[5.1.2 (TM)]、[5.1.2 (FD)]または[5.1.2 (SRD)]に設定すると音声が出力されません。

²⁾ スピーカーパターンを[5.1.2 (TM)]、[5.1.2 (FD)]または[5.1.2 (SRD)]に設定すると音声が出力されません。

ご注意

音声がかえらない場合は、すべてのスピーカーが正しいスピーカー端子にしっかりとつながれていること(18ページ)と正しいスピーカーパターンが選ばれていること(17ページ)を確認してください。

選べるサウンドフィールドとその効果

サウンドフィールド		表示窓の表示	サウンドフィールドの効果
2CH/ MULTI	2chステレオ	2CH STEREO	2チャンネル音声信号を、サラウンド効果を加えずに再生できます。モノラル音声信号やマルチチャンネル音声信号は、2チャンネルに変換して再生します。 2本のフロントスピーカーのみで、バーチャルサラウンド効果を加えずに音声信号をそのまま再生したいときに適しています。フロント左／右の2本のスピーカーのみから音が出ます。アクティブサブウーファーからは音が出ません。
	マルチチャンネルステレオ	MULTI ST.	接続されているすべてのスピーカーから音声を出力します。2チャンネル音声信号やモノラル音声信号の場合は、サラウンド効果を加えずに、すべてのスピーカーから出力します。マルチチャンネル音声信号の場合は、スピーカーの設定やコンテンツによって、一部のスピーカーからは音声が出ないことがあります。
	ダイレクト	DIRECT	すべての音声信号を、サラウンド効果を加えずに再生できます。
	A.F.D. (Auto Format Decoding)	A.F.D.	入力された音声信号に応じて、適切な処理方法でデコードし、再生できます。
MOVIE	Dolby Surround	DOLBY SURR	ドルビーサラウンドアップミキサーが従来型の音声コンテンツをマルチチャンネルに拡張し、ハイトスピーカーを含めた、マルチチャンネルスピーカー構成で再生できます。 このアップミキサーは、ドルビープロロジックIIIに代わる新しい拡張技術です。
	Neural:X	NEURAL:X	Neural:XはDTSの新しいアップミキサー技術で、ステレオ、5.1チャンネル、7.1チャンネルの映画や音楽をお使いのスピーカー構成に合わせて再配置します。 これにより、従来の映画や音楽コンテンツの再生時でも高さ方向への音像を作り出せるようになるため、これまで以上に高い臨場感を得ることができます。
	フロントサラウンド	FRONT SUR.	ソニーオリジナルのバーチャル信号処理技術により、2本のフロントスピーカーでも豊かなサラウンド効果が楽しめます。
MUSIC	オーディオエンハンサー	A. ENHANCER	ソニーオリジナルのDSEE HX (Digital Sound Enhancement Engine HX) により、既存の音源をハイレゾ相当の情報量をもつ高解像度音源にアップスケールし、レコーディングスタジオやコンサートの臨場感を再現します。オーディオエンハンサーは、以下から入力された、サンプリング周波数が44.1 kHzまたは48 kHzの2チャンネル音源にのみ働きます。 <ul style="list-style-type: none"> - USB - Home Network - Music Service List (Spotify Connectによる音楽再生) - Bluetooth ただし、ワイヤレスマルチルーム再生時には動きません。
Headphone	ヘッドホン(2ch)	HP 2CH	ヘッドホンを接続しているときに自動的に選ばれます。(その他のサウンドフィールドは選べなくなります。) 2チャンネル音声信号は、サラウンド効果を加えずに再生され、モノラル音声信号やマルチチャンネル音声信号は2チャンネルに変換して再生されます。

ご注意

- サラウンドスピーカーと2本のサラウンドバックスピーカーをつないでいるときに、[ダイレクト]を選んで5.1チャンネルの音声を再生すると、音声フォーマットによっては7.1チャンネルのサラウンドシステムのように、サラウンドバックスピーカーからサラウンドスピーカーと同じ音声が出力されます。サラウンドスピーカーとサラウンドバックスピーカーの音声レベルは、自動的に最適なバランスに調節されます。
- [マルチチャンネルステレオ]、[A.F.D.]、[Dolby Surround]以外のサウンドフィールドを選んでいるときは、ドルビーアトモスはDolby TrueHDまたはDolby Digital Plusとしてデコードされます。
- [USB]、[Home Network]、[Music Service List] (Spotify Connectによる音楽再生)および[Bluetooth]以外の入力を選んでいるときは、オーディオエンハンサー (A. ENHANCER)は選べません。

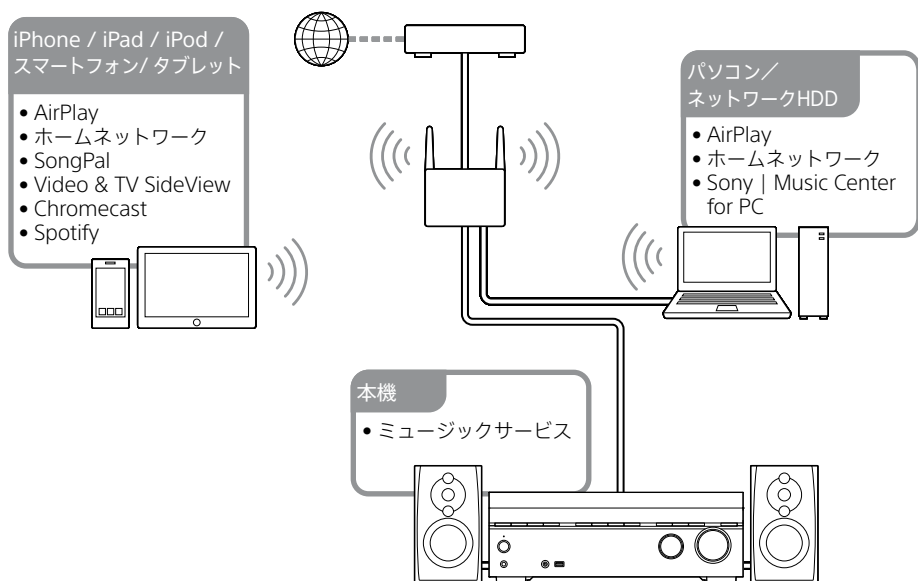
ネットワーク機能について

ネットワーク機能を使ってできること

有線または無線でホームネットワークに接続しているパソコン、ネットワークHDD（ハードディスクドライブ）、iPhone/iPad/iPod、あるいはその他のスマートフォンやタブレットの音声／音楽コンテンツを再生して楽しむことができます。

また、インターネットに接続することで、インターネットラジオや音楽のストリーミングの配信も聞くことができます。

対応アプリを使えば、スマートフォンから本機を操作することもできます。



映像や音声を楽しむ

• AirPlay

本機はAirPlayに対応しています。

iPhone/iPad/iPodあるいはiTunesライブラリの音声／音楽コンテンツを再生して楽しむことができます。

詳しくはヘルプガイドの「ネットワーク経由でiTunesまたはiPhone/iPad/iPodの音声を楽しむ(AirPlay)」をご覧ください。

• ホームネットワーク

ホームネットワークを利用して、ネットワーク上の機器（パソコン、ネットワークHDDなど）からさまざまなフォーマットの音声を再生できます。

詳しくはヘルプガイドの「ホームネットワーク上のサーバー内にあるコンテンツを楽しむ(DLNA)」をご覧ください。

• SongPal

スマートフォンやタブレットにインストールしたSongPalを使って、本機をワイヤレスで操作できます。

本機の再生機能やマルチゾーン機能、SongPal Link機能をお使いの方におすすめします。

詳しくはヘルプガイドの「スマートフォンやタブレット機器を使って操作する(SongPal)」をご覧ください。

• Video & TV SideView

スマートフォンやタブレットにインストールされたVideo & TV SideViewを用いて、本機をワイヤレスで操作することができます。本機と合わせてソニー製のテレビをよく使われている方におすすめします。

詳しくはヘルプガイドの「Video & TV SideView機器をアンプに登録する」をご覧ください。

• インターネットのストリーミングサービス

本機をインターネットに接続することで、インターネットのさまざまな配信サービスを楽しめます。

詳しくはヘルプガイドの「インターネットで提供されているラジオや音楽サービスを楽しむ」をご覧ください。

• Chromecast

Cast対応アプリから音声／音楽コンテンツを選択し、本機で再生することができます。

詳しくはヘルプガイドの「Chromecast built-in™ を使ってスマートフォンやタブレットの音声を楽しむ」をご覧ください。

• Spotify

Spotifyアプリから音声／音楽コンテンツを選択し、本機で再生することができます。

詳しくはヘルプガイドの「Spotify Connectで音楽を楽しむ」をご覧ください。

• Sony | Music Center for PC

Sony | Music Center for PCを使えば、パソコンにダウンロードしたSony | Music Center for PCライブラリ内のハイレゾ音源を含む音楽ファイルを本機で楽しむことができます。

詳しくはヘルプガイドの「Sony | Music Center for PCを使ってハイレゾ音源を再生して楽しむ」をご覧ください。

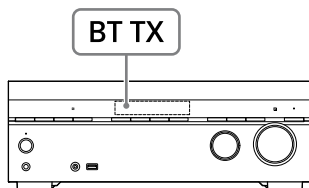
ご注意

スマートフォンによるコンテンツへの以下の遠隔操作は、本機が見える位置からのみ行ってください。

- 再生／停止／一時停止
- 曲送り／曲戻し
- 音量の調整
- 消音
- リピート／シャッフル再生

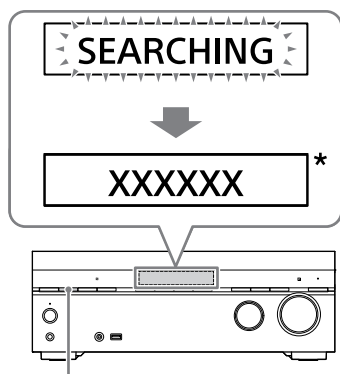
BLUETOOTHヘッドホンやスピーカーで聞く

- 1 BLUETOOTH RX/TXボタンを繰り返し押し、「BT TX」を選ぶ。
本機のBLUETOOTHモードがTX（送信）モードに切り替わります。



- 2 ヘッドホンやスピーカーの電源を入れて、ペアリングモードにする。

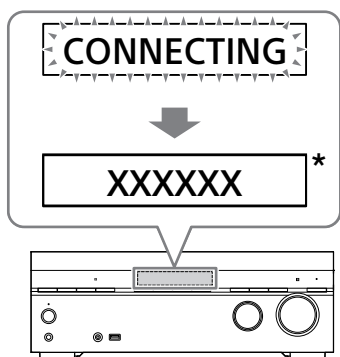
- 3** 本体前面のCONNECTION ●PAIRING BLUETOOTHボタンを約2秒間押したままにする。
表示窓に「SEARCHING」が約10秒点滅し、検知されたBLUETOOTH機器名が表示されます。



CONNECTION ●PAIRING
BLUETOOTHボタン

* 「XXXXXX」は検知されたBLUETOOTH機器名です。

- 4** ↑/➡ ボタンを押してヘッドホン名やスピーカー名を選んで、[+] ボタンを押す。
「CONNECTING」が点滅し、ヘッドホン名またはスピーカー名が表示されます。BLUETOOTH接続が終了します。



* 「XXXXXX」は検知されたBLUETOOTH機器名です。

- 5** 入力切り替え用ボタンを押して、使いたい入力を選ぶ。
BLUETOOTHヘッドホンまたはスピーカーから音声出力されます。本機からは音声出力されません。
- 6** BLUETOOTHヘッドホンまたはスピーカーの音量を調節する。
本機およびリモコンからの音量調節は、BLUETOOTHヘッドホンまたはスピーカーにのみ働きます。

ご注意

- 直近に接続したBLUETOOTH機器は上記の手順1を行うだけで再接続できます。
- ワンタッチ接続(NFC)はTX(送信)モードでは使えません。
- 表示窓に「NOT. USE」が表示されると、BLUETOOTHモードを切り替えることはできません。以下を確認してください。:
 - BLUETOOTH機能を使用している。
 - [Bluetoothモード]が[切]に設定されている。

ちょっと一言

[Bluetooth設定]の[Bluetoothモード]を[送信]にしてもBLUETOOTHモードをTX(送信)モードに切り替えられます。[Bluetooth設定]の[機器リスト]からヘッドホン名またはスピーカー名を選びます。お使いの機器名が見つからない場合は、[検索]を選んでください。

その他

消費電力を抑える

以下のとおり設定すると、スタンバイ時の消費電力を抑えられます。

- [HDMI設定]メニューの[HDMI機器制御]および[スタンバイスルー]を[切]にする。
- [通信設定]メニューの[リモート起動]および[ネットワークスタンバイ]を[切]にする。
- [Bluetooth設定]メニューの[Bluetoothスタンバイ]を[切]にする。
- [Zone Controls]メニューの[ゾーン2機能]または[HDMIゾーン機能]を[切]にする。

ご注意

Chromecast built-in機能の使用に同意すると、[ネットワークスタンバイ]は自動的に[入]に設定されます。

ソフトウェアのアップデートをする

ソフトウェアを最新バージョンにアップデートすることにより、最新の機能を楽しむことができます。

以下の場合に新しいソフトウェアが利用できます：

- 表示窓に「UPDATE」と表示されたとき。
- [ソフトウェアアップデート通知]を[入]に設定時に、テレビ画面にメッセージが表示されたとき。

ご注意

ダウンロードとアップデートの動作が終了するまで、電源を切ったり、電源コードおよびLANケーブルを抜かないでください。誤作動の原因となることがあります。

1 HOMEボタンを押す。

ホームメニューがテレビ画面に表示されます。

2 [Setup] - [システム設定]を選ぶ。

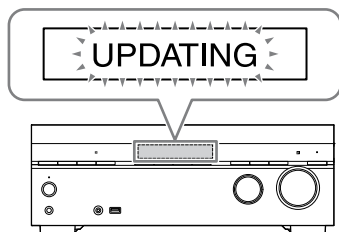
3 [ソフトウェアアップデート]を選ぶ。

4 [ネットワーク経由でアップデート]または[USBメモリーからアップデート]を選ぶ。

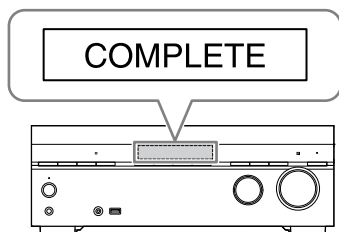
[USBメモリーからアップデート]を選んだ場合、以下のカスタマーサポートサイトをご覧になり、最新バージョンのソフトウェアをダウンロードしてください。

<https://www.sony.jp/support/audio/>

5 ソフトウェアのアップデートをする。



ソフトウェアアップデート中は表示窓に「UPDATING」が点滅します。アップデート中、「UPDATING」の表示が一時的に消える場合があります。



アップデートが終了すると、表示窓に「COMPLETE」と表示され、本機は自動的に再起動します。

ご注意

- アップデート終了までに約1時間かかります。
- ソフトウェアアップデート後は、前のバージョンに戻すことはできません。
- 自動的にソフトウェアアップデートを実行させたい場合は、[自動アップデート] を[入]に設定してください。アップデートの内容によっては、[自動アップデート]が[切]に設定されていてもアップデートが実行される場合があります。

困ったときは

本機の使用中に問題が発生したら、修理に出す前に、問題を解決するため以下の確認をしてください。

- 「困ったときは」の項目にその問題が記載されているかを確認してください。
- 問題の解決法はオンラインのヘルプガイドに記載されている場合があります。ヘルプガイドでは、キーワードを入力して検索できます。
<http://rd1.sony.net/help/ha/strdn108/ja/>

それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口(裏表紙)にお問い合わせください。

全体

本機の電源が自動的に切れてしまう

- [自動電源オフ]が[入]に設定されている場合は、[切]に設定してください。
- スリープタイマーが働いています。
- 「PROTECTOR」が働いています。

表示窓の表示が消えてしまう

- 本体前面のPURE DIRECTランプが点灯していたら、PURE DIRECTボタンを押してこの機能をオフにします。
- 本体前面のDIMMERボタンを押して表示窓の明るさを調節します。

映像

テレビ画面に映像が表示されない

- リモコンの入力切り替え用ボタンを押すか、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回して、視聴したい入力を選んでください。
- お使いのテレビを正しい入力に切り替えてください。
- お使いのオーディオ機器をテレビから離してください。
- ケーブルが機器に正しくしっかりつながれていることを確認してください。
- 本機とテレビをつないでいるHDMIケーブルを本機、テレビ両方から抜き、接続し直してください。
- [HDMI設定]メニューで、選ばれている入力の[HDMI信号フォーマット]を[標準フォーマット]に設定してください。
- 再生機器の設定をする必要があります。詳しくは各機器の取扱説明書をご覧ください。
- 1080pやDeep Color、4Kまたは3D伝送で映像や音声を視聴する場合は、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル(イーサネット対応)をお使いください。4K/60p 4:4:4、4:2:2 および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号には、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル(イーサネット対応)が必要です。
- 本機のHDMI映像信号出力が「HDMI OFF」に設定されている場合は、リモコンのHDMI OUTボタンを押して、「HDMI A」または「HDMI B」、「HDMI A + B」に設定します。
- HDCP 2.2のコンテンツを再生する場合は、本機をテレビのHDCP 2.2対応のHDMI入力端子に接続してください。

テレビ画面に3Dコンテンツが表示されない

- テレビまたはビデオ機器によっては3Dコンテンツが表示されない場合があります。本機が対応している3D HDMI映像フォーマットの詳細についてはヘルプガイドをご覧ください。
- 必ずイーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。

テレビ画面に4Kコンテンツが表示されない

- テレビまたはビデオ機器によっては4Kコンテンツが表示されない場合があります。お使いのテレビとビデオ機器のビデオ性能および設定を確認してください。
- 必ずイーサネット対応ハイスピードHDMIケーブルをお使いください。
- 4K/60p 4:4:4、4:2:2および4K/60p 4:2:0 10 bitなど高帯域幅を必要とする映像信号を使う場合は18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル(イーサネット対応)が必要です。
- お使いのテレビに「HDMI信号フォーマット」に相当するメニュー(高帯域幅を必要とする映像信号の受信可否を決める設定メニュー)がある場合、本機で「拡張フォーマット」(41ページ)を選ぶときはテレビ側の設定も確認してください。テレビ側の設定についての詳細は、テレビの取扱説明書をご覧ください。
- 必ず本機を4K対応のテレビまたはビデオ機器のHDMI入力端子につないでください。4K解像度のビデオコンテンツなどの再生機器を使うときは、必ずHDMIケーブルをHDCP 2.2対応のHDMI端子につないでください。

テレビ画面にホームメニューが表示されない

- テレビを本機のHDMI OUT端子に接続している場合のみホームメニューが表示できます。

- テレビをHDMI OUT B/HDMI ZONE端子につなぐ場合、[HDMI設定]の[HDMI出力Bモード]を[メイン]に設定します。
- HOMEボタンを押してホームメニューを表示させてください。
- テレビが正しくつながれていることを確認してください。
- 本機とテレビをつないでいるHDMIケーブルを本機、テレビ両方から抜き、接続し直してください。
- テレビによってはホームメニューがテレビ画面に表示されるまで時間がかかる場合があります。

HDR (High Dynamic Range) コンテンツがHDRのまま表示されない

- テレビまたはビデオ機器によってはHDRコンテンツがHDRのまま表示されない場合があります。お使いのテレビとビデオ機器のビデオ性能および設定を確認してください。
- テレビとビデオ機器の両方がHDRおよび18 Gbpsの帯域幅に対応していても、選ばれている入力の[HDMI信号フォーマット]が[標準フォーマット]に設定されていると、ビデオ機器によってはHDRコンテンツをHDRのまま出力できない場合があります。その場合は、[HDMI設定]メニューで、選ばれている入力の[HDMI信号フォーマット]を[拡張フォーマット]に設定してください。[拡張フォーマット]を選んだ場合は、18 Gbpsに対応したプレミアムハイスピードHDMIケーブル(イーサネット対応)をお使いください。

音声

どの機器を選んでも音が出ない、または音がほとんど聞こえない

- すべてのケーブルが本機、スピーカーその他の機器の入力／出力端子につながれていることを確認してください。
- 本機とすべての機器の電源が入っていることを確認してください。

- 本体前面のMASTER VOLUMEつまみが「VOL MIN」になっていないことを確認してください。
- 本体前面のSPEAKERボタンを押して、「SPK OFF」以外の設定を選んでください(39ページ)。
- ヘッドホンが本機につながれていないことを確認してください。
- ㊦ (消音) ボタンを押してミュート (消音) 機能をキャンセルしてください。
- リモコンの入力切り替え用ボタンを押すか、本体前面のINPUT SELECTORつまみを回して、視聴したい入力を選んでください。
- テレビのスピーカーから音声を聞きたい場合は、[HDMI設定]メニューの[音声信号出力]を[テレビ + アンプ]に設定してください。マルチチャンネル音声ソースを再生できない場合は、[アンプ]に設定してください。この場合、音声はテレビのスピーカーからは出力されません。
- 再生機器からのサンプリング周波数またはチャンネル数、音声出力信号の音声フォーマットを切り替えると、音声途切れることがあります。
- BLUETOOTHヘッドホンで聞いているときは、[Bluetoothモード]が[送信]に設定されていることを確認してください。
- センタースピーカーなしのスピーカーパターンに設定している場合、[DSDネイティブ再生]が[入]に設定されていて、DSDマルチチャンネル音源が再生されているときは、センターチャンネルの音声は出力されません。
- サラウンドスピーカーなしのスピーカーパターンに設定している場合、[DSDネイティブ再生]が[入]に設定されていて、DSDマルチチャンネル音源が再生されているときは、サラウンドL / サラウンドRチャンネルの音声は出力されません。
- [音声設定]の[DSDネイティブ再生]を[入]に設定しているとき、[USB]、[Bluetooth] (Bluetoothモードを[受信]に設定したときのみ)、[Home Network]および[Music Service List]の

音声はゾーン2スピーカーから出力されません。

eARCまたはARC機能に対応しているHDMIテレビOUT A端子にテレビを接続しているとき、テレビの音声为本機につないだスピーカーから聞こえない

- [HDMI設定]メニューの[HDMI機器制御]を[入]に設定してください。
- お使いのテレビがeARCまたはARC機能に対応していることを確認してください。
- お使いのテレビのeARCまたはARC機能対応の端子にHDMIケーブルがつながれていることを確認してください。
- お使いのテレビのeARCまたはARC機能をオンに設定してください。
- お使いのテレビがARC機能に対応しているeARC機能に対応していない場合には、[HDMI設定]メニューの[eARC]を[切]に設定してください。

テレビの映像と本機につないだスピーカーからの音声がずれる

- [音声設定]メニューの[AVシンク]の設定を変更してください。
- テレビ側でAVシンクの設定を行ってください。詳しくはテレビの取扱説明書を参照してください。

サラウンド効果が得られない

- コンテンツに応じて適切なサウンドフィールドが選ばれていることを確認してください。サウンドフィールドについて詳しくは「選べるサウンドフィールドとその効果」(47 ページ)をご覧ください。
- スピーカーパターンが[2.0]または[2.1]のときは、[Dolby Surround]、[Neural:X]は動きません。

音声映像より遅れる

ワイヤレスマルチルーム機能を使用して以下の音源から入力された音声を聞く場合、別の部屋などにある他のスピーカーの音声出力と同期させるため、本機の音声は映像より遅れて出力されます。

A HDMI IN端子、光デジタル音声IN端子、同軸デジタル音声IN端子および音声IN端子につないだ機器

B HDMIテレビOUT A端子につないだeARCまたはARC機能対応テレビ

映像と音声のずれが気になる場合は、以下の手順で本機と他のスピーカーとの同期を解除*してください。

* 本機と他のスピーカーの同期を解除すると、本機の音声は映像と同期できませんが、他のスピーカーの音声は遅れて出力されます。

Aの音声を聞いている場合：

- 1 OPTIONSボタンを押す。
オプションメニューが表示されます。
- 2 [Multi-room Sync] - [Off]を選ぶ。

Bの音声を聞いている場合：

- 1 AMP MENUボタンを押す。
本体の表示窓にメニューが表示されます。
- 2 \uparrow/\downarrow ボタンと \square ボタンを押して、「<AUDIO>」(音声設定) - 「M/R SYNC」 - 「OFF」の順に選ぶ。

ネットワークにつながらない

- 有線LAN接続で本機をネットワークに接続したい場合は、LANケーブルが本機につながっていることを確認してください。
- ネットワーク情報を確認してください。接続できない場合は、もう一度ネットワーク接続を設定してください。
- 本機がネットワークでワイヤレス接続されている場合は、本機と無線LANルーター／アクセスポイントを近づけてもう一度設定を行ってください。
 - 無線LANルーター／アクセスポイントを使っていることを確認してください。
 - 無線LANルーター／アクセスポイントの電源が入っていることを確認してください。
 - 無線LANルーター／アクセスポイントの設定を確認し、もう一度設定をし直してください。機器の設定についての詳細は、機器の取扱説明書をご覧ください。
 - 無線ネットワークは電子レンジ、その他の機器からの電磁気に影響されます。本機をこれらの機器から離してください。

[通信設定]メニューが選べない

本機の電源を入れてから少し待って、もう一度[通信設定]メニューを選んでください。

ネットワーク接続

無線LAN接続でWPSを使ってネットワークにつながることができない

アクセスポイントが WEPに設定されているときは、[Wi-Fi Protected Setup™ (WPS)]を使ってネットワークにつなぐことはできません。アクセスポイントスキャンを使ってアクセスポイントを検索し、ネットワークの設定を行ってください。

エラーメッセージ

表示窓に「PROTECTOR」と表示された数秒後に本機の電源が自動的に切れます。以下を確認してください。

- 電圧異常または電源異常が起きています。電源コードを抜いて、30分間おいてもう一度電源コードをつないでください。
- 本機が何かで覆われ、通気孔がふさがれています。通気孔をふさいでいるものを取り除いてください。
- 本体後面に表示されているインピーダンス範囲よりインピーダンスの低いス

ピーカーをつないでいます。音量を下げてください。

- 電源コードを抜いて30分放置し、本機の温度を下げてから、以下の対策を行ってください。
 - すべてのスピーカーとアクティブサブウーファのケーブルを抜く。
 - スピーカーの芯線の先端がしっかりねじられていることを確認する。
 - まずフロントスピーカーをつないで、音量レベルを上げ、本機の温度が上がるまで少なくとも30分間操作する。そのあと、他のスピーカーを1台ずつつないで各スピーカーをテストし、どのスピーカーがプロテクションエラーの原因になっているかを確かめる。

以上の項目を確認して問題に対処したら、電源コードをつないで本機の電源を入れてください。それでも問題が解決しないときは、お買い上げ店またはソニーの相談窓口(裏表紙)にお問い合わせください。

テレビ画面に[過電流が発生しました。]と表示される

⚡ (USB)ポートからの過電流が検知されました。警告メッセージにあるようにUSB機器を取りはずし、メッセージを閉じてください。

自動音場補正測定後のメッセージリスト

エラー 30

ヘッドホンが挿入されています。ヘッドホンをはずして再測定してください。

エラー 31

フロントスピーカーの選択が正しくありません。本体前面のSPEAKERSボタンを押してフロントスピーカーを正しく選び、音が出る状態にして再測定してください。フロントスピーカーの選択について詳しくは、「フロントスピーカーを選ぶ」(39ページ)をご覧ください。

エラー 32、エラー 33

- スピーカーから音が検出されませんでした。
 - 左か右どちらか、または両方のフロントスピーカーから音が検出されませんでした。測定用マイクが破損していないか、本機前面のCALIBRATION MIC端子にマイクがつながっているか、すべてのスピーカーが正しく接続されているかを確認してください。
 - 左か右どちらかのサラウンドスピーカーから音が検出されませんでした。サラウンドスピーカーをSURROUND端子につないでください。
 - サラウンドバックスピーカーがSURROUND BACK/HEIGHT R端子にのみつながっています。サラウンドバックスピーカーを1つだけつなぐときは、SURROUND BACK/HEIGHT L端子につないでください。
 - 左か右どちらかのハイトスピーカーから音が検出されませんでした。ハイトスピーカーをSURROUND BACK/HEIGHT端子につないでください。
- どのチャンネルからも音が検出されませんでした。測定用マイクが破損していないか、本機前面のCALIBRATION MIC端子にマイクがつながっているかを確認してください。

エラー 34

スピーカーが正しい位置に設置されていません。測定用マイク、スピーカーの左右が逆に設置されていることが考えられます。

エラー 35

スピーカーパターンの設定と測定結果が一致しません。スピーカーパターンと接続を確認してください。

警告 40

測定は完了しましたが、騒音のレベルが高いです。再測定を行うと測定できる場合もありますが、すべての環境で測定ができ

るとは限りません。できるだけ、周囲の騒音が少ない状態で測定してください。

警告 41、警告 42

測定用マイクからの入力が過大です。スピーカーと測定用マイクの距離が近すぎる可能性があります。スピーカーと測定用マイクを離して配置してください。本機をプリアンプとしてお使いの場合、つないでいるパワーアンプによってはこのメッセージが表示されることがありますが、そのままお使いいただいても問題ありません。

警告 43

アクティブサブウーファースの距離・位相が測定できませんでした。ノイズが原因となっている場合があります。周囲が静かな状態で再測定してください。

警告 44

測定は終了しましたが、スピーカーの位置関係がおかしい可能性があります。ヘルプガイドの「スピーカーを設置する」を参照して、スピーカーの位置を確認してください。

使用上のご注意

安全について

万一、内部に水や異物が入ったときは、すぐに使用を中止し、本機の電源スイッチを切り、電源コードをコンセントから抜き、お買い上げ店または修理相談窓口にご相談ください。

電源について

- ご使用前に、本機の動作電圧が地域の使用電圧と同じであることを確かめてください。
動作電圧は本体後面の銘板に表示されています。
- 長期間本機を使用しない場合は、必ず本機の電源コードを壁のコンセントから抜いてください。電源コードを壁のコンセントから抜く場合は、絶対にコードを引っ張らず、プラグを持って抜いてください。
- 電源コードは正規のサービス店以外で交換しないでください。

温度上昇について

使用中、本体の温度がかなり上昇しますが、故障ではありません。特に、大音量で使用し続けると、本体のキャビネットの天板や側板、底板はかなり熱くなります。このようなときは、キャビネットに触れないようにしてください。火傷などのけがの原因となります。

設置について

- 電源プラグは容易に手が届く場所にあるコンセントに接続してください。また、本機を以下のような所には置かないでください。
 - ぐらついた台の上や不安定な場所
 - じゅうたんや布団の上
 - 湿気の多い所、風通しの悪い所
 - ほこりの多い所
 - 密閉された所

- 直射日光が当たる所、温度が高い所
- 極端に寒い所
- テレビやビデオデッキ、カセットデッキから近い所
(テレビやビデオデッキ、カセットデッキといっしょに使用するとき、近くに置くと、雑音が入ったり、映像が乱れたりすることがあります。特に室内アンテナの使用時に起こりやすくなります。)
- 特殊な塗装(ワックス、油脂、溶剤など)がされた床に本機を置くと、床に変色、染みなどが残ることがありますのでご注意ください。

ステレオを聞くときのエチケット

ステレオで音楽をお楽しみになるときは、隣近所に迷惑がかからないような音量でお聞きください。

特に、夜は小さな音でも周囲にはよく通るものです。

窓を閉めたり、ヘッドホンを使ったりするなどお互いに心を配り、快い生活環境を守りましょう。このマークは音のエチケットのシンボルマークです。



操作について

他の機器をつなぐ前に、必ず本機の電源を切り、電源コードを抜いてください。

お手入れのしかたについて

- キャビネットおよびパネル面、ボタンの汚れは、中性洗剤を少し含ませた柔らかい布で拭いてください。研磨パッド、クレンザー、ベンジンやアルコールなどの溶媒は使わないでください。
- 可燃ガスエアゾールやスプレーを使用しないでください。清掃用や潤滑用などの可燃性ガスを本機に使用すると、モーターやスイッチの接点、静電気などの火花、高温部品が原因で引火し、爆発や火災が発生するおそれがあります。

アップデートに関する注意

本機は、有線LANもしくは無線LANでインターネットに接続してご使用になる場合、ソフトウェアを自動で最新にアップデート(更新)する機能を有しています。

アップデートすることで、新しい機能が追加されたり、より便利かつ安定してご使用になることができます。

ソフトウェアを自動でアップデートさせたくない場合は、スマートフォン/タブレットにインストールしたSongPalを使って、本機能を無効にすることができます。

ただし、本機能を無効にしても、安定してご使用いただくため等により、ソフトウェアを自動でアップデートすることがあります。

また、本機能を無効にしても、お客様の操作で、システムソフトウェアをアップデートすることは可能です。

詳しい設定方法は「ソフトウェアのアップデートをする」(52ページ)をご確認ください。

ソフトウェアアップデート中は、本機をご使用いただけない場合があります。

第三者が提供するサービスに関する免責事項

第三者が提供するサービスは、予告なく、変更・停止・終了することがあります。ソニーは、そのような事態に対していかなる責任も負いません。

機器認定について

本機は、電波法に基づく小電力データ通信システムの無線設備として、認証を受けています。従って、本機を使用するときに無線局の免許は必要ありません。

ただし、以下の事項を行うと法律に罰せられることがあります。

- 本機を分解/改造すること

BLUETOOTH無線技術について

BLUETOOTH機能の対応バージョンとプロファイル

プロファイルとは、BLUETOOTHの特性ごとに機能を標準化したものです。本機が対応するBLUETOOTHバージョンとプロファイルについては「主な仕様」の「BLUETOOTH部」をご覧ください(65ページ)。

通信有効範囲

見通し距離で約10 m以内で使用してください。以下の状況においては、通信有効範囲が短くなることがあります。

- BLUETOOTH接続している機器の間に、人体や金属、壁などの障害物がある場合
- 無線LANが構築されている場所
- 電子レンジを使用中の周辺
- その他の電磁波が発生している場所

他機器からの影響

BLUETOOTH機器と無線LAN (IEEE 802.11b/g/n)機器は同一周波数帯(2.4 GHz)を使用するため、無線LANを搭載した他の機器の近辺でBLUETOOTH機器を使用すると、電波干渉が発生し、通信速度その他の低下、雑音や接続不能の原因になる場合があります。この場合、次の対策を行ってください。

- 本機を無線LAN機器から10 m以上離して使う。
- BLUETOOTH機器を10 m以内で使用する場合は、無線LAN機器の電源を切る。
- 本機とBLUETOOTH機器をできる限り近付けて置く。

他機器への影響


BLUETOOTH機器が発する電波は、電子医療機器などの動作に影響を与える可能性があります。場合によっては事故を発生させる原因になりますので、次の場所では本機およびBLUETOOTH機器の電源を切ってください。

- 病院内／電車内／航空機内／ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所
- 自動ドアや火災報知機の近く

ご注意

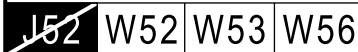
- 本機は、BLUETOOTH無線技術を使用した通信時のセキュリティとして、BLUETOOTH標準規格に準拠したセキュリティ機能に対応しておりますが、設定内容等によってセキュリティが充分でない場合があります。BLUETOOTH無線通信を行う際はご注意ください。
- BLUETOOTH技術を使用した通信時に情報の漏洩が発生しましても、弊社としては一切の責任を負いかねますので、あらかじめご了承ください。
- 本機と同じプロファイルを持つすべてのBLUETOOTH機器とのBLUETOOTH通信を保証するものではありません。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器は、Bluetooth SIG, Inc. の定めるBLUETOOTH標準規格に適合し、認証を取得している必要があります。ただし、BLUETOOTH標準規格に適合していても、BLUETOOTH機器の特性や仕様によっては、接続できない、操作方法や表示・動作が異なるなどの現象が発生する場合があります。
- 本機と接続するBLUETOOTH機器や通信環境、周囲の状況によっては、雑音が入ったり、音が途切れたりすることがあります。

ワイヤレス技術について

- 本機はワイヤレス機能を内蔵しています。 以下の点に注意してご使用いただき、障害などが発生した場合には、本機のワイヤレス機能を使用しないようにしてください。また、緊急の場合には、ただちに本機の電源を切ってください。
 - 病院などの医療機関内、医療用電気機器の近くではワイヤレス機能を使用しない。電波が影響を及ぼし、医療用電気機器の誤動作による事故の原因となるおそれがあります。
 - 本製品を使用中に他の機器に電波障害などが発生した場合は、ワイヤレス機能を使用しない。電波が影響を及ぼし、誤動作による事故の原因となるおそれがあります。
- 本製品に接続するルーター等は、電気通信事業法に基づく技術基準に適合しているものを接続してください。
- 法令により本機の5 GHz帯無線装置を屋外で使用することは禁止されています。

IEEE802.11b/g/n

IEEE802.11a/n

 W52 W53 W56

IEEE 802.11a/b/g/n 準拠 (W52/W53/W56)

本機の使用上の注意事項

本機の使用周波数は2.4 GHz/5 GHz帯です。この周波数帯では電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、他の同種無線局、工場の製造ライン等で使用される免許を要する移動体識別用構内無線局、免許を要しない特定の小電力無線局、アマチュア無線局等(以下「他の無線局」と略す)が運用されています。

1. 本機を使用する前に、近くで「他の無線局」が運用されていないことを確認してください。
2. 万一、本機と「他の無線局」との間に電波干渉が発生した場合には、速やかに本機の使用場所を変えるか、または機器の運用を停止(電波の発射を停止)してください。
3. 不明な点その他お困りのことが起きたときは、ソニーの相談窓口までお問い合わせください。ソニーの相談窓口については、本取扱説明書の裏表紙をご覧ください。

2.4DS/OF4

この無線製品は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてDS-SS変調方式およびOFDM変調方式を採用し、与干渉距離は40 mです。

2.4FH/XX8

この無線機器は2.4 GHz帯を使用します。変調方式としてFH-SS変調方式およびその他の方式を採用し、与干渉距離は80 mです。

本機についてご質問や問題がある場合は、ソニーの相談窓口へお問い合わせください。

商標について

本機はドルビー®デジタルサラウンド、DTS®デジタルサラウンドシステムを搭載しています。

* ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー、Dolby Atmos、Dolby Vision及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

** DTSの特許については下記をご覧ください。
<http://patents.dts.com>
DTS社からの実施権に基づき製造されています。DTS、シンボル、DTSおよびシンボルの組み合わせ、DTS:XおよびDTS:Xロゴは米国および他の国々で登録されたDTS社の登録商標または商標です。
© DTS, Inc. All Rights Reserved.

本機は、High-Definition Multimedia Interface (HDMI®)技術を搭載しています。HDMI、High-Definition Multimedia Interface、およびHDMIロゴは、米国およびその他の国におけるHDMI Licensing Administrator, Inc.の商標または登録商標です。

Apple、AirPlay、iPad、iPad Air、iPad Pro、iPhone、iPod、iPod touch、macOS、iTunes、MacおよびOS Xは、米国および他の国々で登録されたApple Inc.の商標です。iPad miniは、Apple Inc.の商標です。「iPhone」の商標は、アイホン株式会社からライセンスを受け使用しています。App StoreはApple Inc.のサービスマークです。

「Works with Apple」バッジは、アクセサリが「Made for Apple」バッジに記載されたアップル製品専用に接続するように設計され、また「Works with Apple」バッジに記載されたテクノロジー専用に対応し、アップルが定める性能基準を満たしていることを示します。アップルは、本製品の機能および安全および規格への適合について一切の責任を負いません。

Windows Media は、米国Microsoft Corporation の、米国およびその他の国における登録商標または商標です。

本製品にはMicrosoft Corporationの知的財産権の対象である技術が含まれています。MicrosoftおよびMicrosoft関連会社から使用許諾を得ることなく、この技術を本製品以外で使用または頒布することは禁じられています。

LDAC™およびLDACロゴは、ソニー株式会社の商標です。

本機はFraunhofer IISおよびThomsonのMPEG Layer-3オーディオコーディング技術と特許に基づく許諾製品です。

“ブラビアリンク” および “BRAVIA Link” ロゴはソニー株式会社の登録商標です。

“PlayStation” は株式会社ソニー・コンピュータエンタテインメントの登録商標です。

“ウォークマン”、“WALKMAN”、“WALKMAN” ロゴは、ソニー株式会社の登録商標です。

POCKET BIT、ポケットビットはソニー株式会社の商標です。

Wi-Fi®およびWi-Fi Alliance®はWi-Fi Alliance®の登録商標です。

WPA™、WPA2™およびWi-Fi Protected Setup™はWi-Fi Alliance®の商標です。

DLNA™およびDLNA ロゴ、DLNA CERTIFIED™ はDigital Living Network Allianceの商標またはサービスマーク、認証マークです。

本機には以下のライセンスの適用を受けるSpotifyソフトウェアが含まれています。
<https://developer.spotify.com/third-party-licenses/>
 SpotifyとSpotifyロゴはSpotify Groupの商標です。

BLUETOOTH®のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc.が所有する登録商標であり、ソニー株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。

N-Markは米国およびその他の国におけるNFC Forum, Inc.の商標または登録商標です。

Android、Google、Google Play、Chromecast built-in、およびその他のマーク、ロゴは、Google LLCの商標です。

その他すべての商標および登録商標は各社の所有物です。本文中では、™、®マークは明記していません。

ソフトウェア使用許諾契約書の注意事項

本製品のソフトウェア使用許諾契約書については、69ページをご覧ください。

ネットワークサービスのソフトウェア使用許諾契約書については、それぞれのネットワークサービスのアイコンにあるオプションメニューの[使用許諾契約書]をご覧ください。

GPL (General Public License) およびLGPL (Lesser General Public License)、その他のソフトウェアのライセンスについては、本製品[Setup]メニューの[システム設定]にある[ソフトウェアライセンス]をご覧ください。

本製品には、GNU General Public License (“GPL”) または、GNU Lesser General Public License (“LGPL”) の適用を受けるソフトウェアが含まれています。お客様は添付のGPL/LGPL の条件に従いこれらのソフトウェアのソースコードの入手、改変、再配布の権利があることをお知らせいたします。

本製品で使われているソフトウェアのソースコードはGPLまたはLGPLの適用を受けています。ソースコードは、Webで提供しております。

ダウンロードするには、以下のURLにアクセスしてください。

URL: <http://oss.sony.net/Products/Linux>
 弊社では、このソースコードに関する質問には一切お答えできません。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や映像方式の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

本取扱説明書またはヘルプガイドの「困ったときは」の項目をご覧ください。故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときは相談窓口へ

ソニーの相談窓口(裏表紙)へご相談になるときは次のことをお知らせください。

- 型名
- つないでいるテレビやその他の機器のメーカーと型名
- 故障の状態：できるだけ詳しく
- 購入年月日

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社ではステレオの補修用性能部品(製品の機能を維持するために必要な部品)を、製造打ち切り後8年間保有しています。ただし、故障の状況その他の事情により、修理に代えて製品交換をする場合がありますのでご了承ください。

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

主な仕様

アンプ部

実用最大出力

ステレオ出力時(6 Ω、JEITA)：

165 W + 165 W

サラウンド出力時(6 Ω、JEITA、非同時駆動)：

フロント：165 W + 165 W

センター：165 W

サラウンド：165 W + 165 W

サラウンドバック：165 W + 165 W

スピーカー適合インピーダンス

フロント、センター、サラウンド、サラウンドバック：6 Ω ~ 16 Ω

高調波ひずみ率

0.09%以下

20 Hz ~ 20 kHz (6 Ω 負荷)

100 W + 100 W

周波数特性

アナログ

10 Hz ~ 100 kHz、+0.5/-2 dB (6 Ω)
(サウンドフィールド、イコライザー不使用時)

入力

アナログ

感度：500 mV/50 kΩ

SN比*：105 dB (A、500 mV**)

デジタル(同軸)

インピーダンス: 75 Ω

SN比: 100 dB (A, 20 kHz LPF)

デジタル(光)

SN比: 100 dB (A, 20 kHz LPF)

出力(アナログ)

ZONE 2

電圧: 2 V/1 kΩ

SUBWOOFER

電圧: 2 V/1 kΩ

イコライザー

ゲインレベル

±10 dB、1 dBステップ

* INPUT SHORT (サウンドフィールド、イコライザー バイパス時)

** 加重ネットワーク、入力レベル

FM チューナー部

受信範囲

76.0 MHz ~ 108.0 MHz (100 kHzステップ)

アンテナ

FMアンテナ線

アンテナ端子

75 Ω、不平衡

ビデオ部

入力/出力

映像: 1 Vp-p、75 Ω

HDMI映像部

解像度

- 480p/60 Hz
- 576p/50 Hz
- 720p/60 Hz、50 Hz、30 Hz、24 Hz
- 1080i/60 Hz、50 Hz
- 1080p/60 Hz、50 Hz、30 Hz、25 Hz、24 Hz
- 4K/60 Hz*、50 Hz*、30 Hz、25 Hz、24 Hz

* VIDEO 1はYCbCr 4:2:0 8 bit 対応のみ

対応

HDCP2.2、HDR (HDR10、Hybrid Log-Gamma、Dolby Vision)、3D、Deep Color、ITU-R BT.2020、eARC/ARC

対応する映像フォーマットについて詳しくはヘルプガイドをご覧ください。

iPhone/iPad/iPod 部

BLUETOOTH技術はiPhone 7、iPhone 7 Plus、iPhone SE、iPhone 6s、iPhone 6s Plus、iPhone 6、iPhone 6 Plus、iPhone 5s、iPhone 5c、iPhone 5、iPhone 4s、および iPod touch (第5および第6世代)に対応しています。

AirPlayは、iOS 4.3.3 以降を搭載したiPhone、iPad、iPod touchに対応しています。またOS X Mountain Lion 以降を搭載したMac、および iTunes 10.2.2 以降を搭載したPCに対応しています。

BLUETOOTHまたはネットワーク接続で「SongPal」アプリを使うことができます。

iPhone/iPad/iPodをUSB接続で再生することはできません。

USB 部

ψ (USB) ポート

Aタイプ(USBメモリー接続用)

最大電流

1 A

ネットワーク部

イーサネットLAN

100BASE-TX

無線LAN

適合規格:

IEEE 802.11 a/b/g/n

セキュリティ:

WPA/WPA2-PSK、WEP

使用周波数帯域:

2.4 GHz、5 GHz

BLUETOOTH 部

通信方式

BLUETOOTH標準規格4.1

出力

BLUETOOTH標準規格 Power Class 1

最大通信距離

見通し距離、約30 m¹⁾

使用周波数帯域

2.4 GHz 帯域(2.4000 GHz ~ 2.4835 GHz)

変調方法

FHSS (Freq Hopping Spread Spectrum)

対応BLUETOOTHプロファイル²⁾

A2DP 1.2 (Advanced Audio Distribution Profile)

AVRCP 1.5 (Audio Video Remote Control Profile)

対応コーデック³⁾

SBC⁴⁾、AAC、LDAC

対応コンテンツプロテクション

SCMS-T方式

送信範囲(A2DP)

20 Hz ~ 40,000 Hz (LDACサンプリング周波数 96 kHz、990 kbps 送信)

20 Hz ~ 20,000 Hz (サンプリング周波数 44.1 kHz)

仕様および外観は、予告なく変更することがあります。

本機は「JIS C 61000-3-2適合品」です。

¹⁾ 通信距離は目安です。周囲環境により通信距離が変わる場合があります。

²⁾ BLUETOOTH標準プロファイルは機器間のBLUETOOTH通信のためのものです。

³⁾ コーデック：音声信号の圧縮、変換のフォーマットです。

⁴⁾ Subband Codecの略です。

一般

電力規定

AC 100 V、50/60 Hz

消費電力

190 W

スタンバイ時

0.4 W 以下 ([HDMI機器制御] および [スタンバイスルー]、[リモート起動]、[Bluetoothスタンバイ]、[ネットワークスタンバイ]、すべてのゾーンの電源が [切] に設定されているとき)

BLUETOOTHスタンバイ時

2.5 W 以下 ([Bluetoothスタンバイ] が [入]、かつ [HDMI機器制御] および [スタンバイスルー]、[リモート起動]、[ネットワークスタンバイ]、すべてのゾーンの電源が [切] に設定されているとき)

寸法(幅/高さ/奥行き)(約)

430 mm × 156 mm × 331 mm

(最大突起部を含む)

質量(約)

9.7 kg

再生できる音声ファイルの種類

フォーマット	拡張子
MP3 (MPEG 1 Audio Layer-3) ¹⁾	.mp3
AAC/HE-AAC ^{1), 2)}	.m4a、.aac、.mp4 ³⁾ 、.3gp ³⁾
WMA9 Standard ²⁾	.wma
WMA 10 Pro ^{3), 4)}	.wma
LPCM ¹⁾	.wav
FLAC ²⁾	.flac、.fla
ドルビーデジタル ^{1), 3)}	.ac3
DSF ²⁾	.dsf
DSDIFF ^{2), 5)}	.dff
AIFF ²⁾	.aiff、.aif
ALAC ²⁾	.m4a
Vorbis	.ogg
Monkey's Audio	.ape

- ¹⁾ 本機は拡張子が「.mka」のファイルも再生できますが、ホームネットワーク上にある場合は再生できません。
- ²⁾ ホームネットワークサーバー上にある場合、再生できないことがあります。
- ³⁾ ホームネットワークサーバー上にある場合、再生できません。
- ⁴⁾ ロスレスなどでエンコードされたファイルは再生できません。
- ⁵⁾ DSTエンコードされたファイルは再生できません。

ご注意

- ファイルのフォーマットや圧縮状況、録画状態、またはホームネットワークサーバーの状態によって再生できないことがあります。
- パソコンで記録や編集したファイルは再生できないことがあります。
- ファイルによっては早送り／早戻しができないことがあります。
- デジタル著作権管理 (DRM) など保護されたファイルは再生できません。
- 本機はUSB機器内の、以下のファイルおよびフォルダーを認識します：
 - ルートフォルダーを含め、9階層目までのフォルダー
 - 1階層につき500までのファイル
- 本機はホームネットワークサーバー内の、以下のファイルおよびフォルダーを認識します：
 - 19階層目までのフォルダー
 - 1階層につき999までのファイル／フォルダー
- USB機器によっては、本機で再生できないことがあります。
- 本機はマストレージクラス (MSC) 機器 (フラッシュメモリーやハードディスクなど)、101キーボードを認識します。

再生できるデジタル音声フォーマット

デコードできるデジタル音声フォーマットは、接続機器のデジタル音声出力端子によって異なります。以下の音声フォーマットに対応しています。[]内は表示窓に表示される文言を示しています。

デジタル音声フォーマット	最大デコードチャンネル数	本機との接続
ドルビーデジタル[DOLBY D]	5.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
ドルビーデジタルプラス[DOLBY D +] ¹⁾	7.1	HDMI、eARC、ARC
ドルビー TrueHD [DOLBY HD] ¹⁾	7.1	HDMI、eARC
ドルビーアトモス - ドルビーデジタルプラス [DAtmos] ^{1), 2)}	5.1.2、7.1または7.1.2 ³⁾	HDMI、eARC、ARC
ドルビーアトモス - ドルビー TrueHD [DAtmos] ^{1), 2)}	5.1.2、7.1または7.1.2 ³⁾	HDMI、eARC
DTS [DTS]	5.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
DTS-ES Discrete [DTS-ES Dsc]	6.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
DTS-ES Matrix [DTS-ES Mtx]	6.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
DTS 96/24 [DTS 96/24]	5.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC
DTS-HD High Resolution Audio [DTS-HD HR] ¹⁾	7.1	HDMI、eARC
DTS-HD Master Audio [DTS-HD MA] ¹⁾	7.1	HDMI、eARC
DTS:X [DTS:X] ¹⁾	5.1.2、7.1または7.1.2 ³⁾	HDMI、eARC
DTS:X Master Audio [DTS:X MA] ¹⁾	5.1.2、7.1または7.1.2 ³⁾	HDMI、eARC
DSD [DSD] ^{1), 4)}	5.1	HDMI
マルチチャンネルリニアPCM [PCM] ¹⁾	7.1	HDMI、eARC
MPEG-2 AAC (LC) [MPEG-2 AAC] ¹⁾	5.1	同軸デジタル音声／光デジタル音声、HDMI、eARC、ARC

¹⁾ 再生機器が上記のフォーマットに対応していない場合は、音声信号は別のフォーマットで出力されます。詳しくは、再生機器の取扱説明書をご覧ください。

²⁾ スピーカーパターンを2.0、2.1、3.0、3.1、4.0、4.1、5.0、5.1のいずれかに設定している場合、ドルビーアトモスはドルビーデジタルプラスまたはドルビー TrueHDとしてデコードされます。

³⁾ [SPKリロケーション／ファントムSB]が[タイプA]または[タイプB]に設定されているときのみ。

⁴⁾ ワイヤレスヘッドホンには出力できません。

ソフトウェア使用許諾契約書

本契約は、ソニー株式会社(以下「ソニー」とします)とお客様との間でのソニーソフトウェア(コンピュータソフトウェア、マニュアルなどの関連書類及び電子文書並びにそれらのアップデート・アップグレード版を含み、以下「許諾ソフトウェア」とします)の使用権の許諾に関する条件を定めるものです。許諾ソフトウェアをご使用いただく前に、本契約をお読み下さい。お客様による許諾ソフトウェアの使用開始をもって、本契約にご同意いただいたものとします。

なお、許諾ソフトウェアの中には、ソニー以外のソフトウェアの権利者が定める使用許諾条件(GNU General Public license (GPL)、Lesser/Library General Public License (LGPL)を含みますが、これらに限られるものではありません)を伴うソフトウェア(以下「対象外ソフトウェア」とします)が含まれている場合があります。対象外ソフトウェアのご使用は、各権利者の定める使用許諾条件に従っていただくものとします。

第1条(総則)

許諾ソフトウェアは、日本国内外の著作権法並びに著作権者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他知的財産権に関する法令によって保護されています。許諾ソフトウェアは、本契約の条件に従いソニーからお客様に対して使用許諾されるもので、許諾ソフトウェアの著作権等の知的財産権はお客様に移転いたしません。

第2条(使用権)

ソニーは、許諾ソフトウェアを、お客様がお持ちの許諾ソフトウェアに対応したデバイス(以下「指定デバイス」とします)上で、私的利用の目的で使用する、非独占的な権利をお客様に許諾します。

第3条(権利の制限)

1. お客様は、許諾ソフトウェアの全部又は一部を複製、複写、譲渡、販売したり、これに対する修正、追加等の改変をすることはできないものとします。また、許諾ソフトウェアに含まれるトレードマークやその他の権利標記等の表示を削除したり、外観の変更をしてはならないものとします。
2. お客様は、別途明示的に承諾されている場合を除き、許諾ソフトウェアを再使用許諾、貸与又はリースその他の方法で第三者に使用させてはならないものとします。
3. お客様は、別途明示的に承諾されている場合を除き、許諾ソフトウェアの一部又はその構成部分を許諾ソフトウェアから分離して使用しないものとします。
4. お客様は、許諾ソフトウェアを用いて、ソニー又は第三者の著作権等の権利を侵害する行為を行ってはならないものとします。
5. お客様は、許諾ソフトウェアに関しリバースエンジニアリング、逆アセンブル、逆コンパイル等のソースコード解析作業を行ってはならないものとします。
6. 許諾ソフトウェアの使用に伴い、許諾ソフトウェアが自動的に許諾ソフトウェアで用いるためのデータファイルを作成する場合があります。この場合、当該データファイルは許諾ソフトウェアと看做されるものとします。

第4条(許諾ソフトウェアの権利)

許諾ソフトウェアに関する著作権等一切の権利は、ソニー、ソニーの関連会社又はソニーが本契約に基づきお客様に対して使用許諾を行うための権利をソニー又はソニーの関連会社に許諾した原権利者(以下「原権利者」とします)に帰属するものとし、お客様は許諾ソフトウェアに関して本契約に基づき許諾された使用権以外の権利を有しないものとします。

第5条(責任の範囲)

1. ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアにエラー、バグ等の不具合がないこと、若しくは許諾ソフトウェアが中断なく稼動すること又は許諾ソフトウェアの使用がお客様及び第三者に損害を与えないことを保証しません。但し、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、当該エラー、バグ等の不具合に対応するため、許諾ソフトウェアの一部を書き換えるソフトウェア若しくはバージョンアップの提供による許諾ソフトウェアの修補又は当該エラー、バグ等についての問い合わせ先の通知を行うことがあります。本項に定めるソフトウェア及びバージョンアップの提供方法又は問い合わせ先の通知方法はソニー、ソニーの関連会社又は原権利者がその裁量により定めるものとします。また、ソニー、ソニー関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアが第三者の知的財産権を侵害していないことを保証いたしません。
2. 許諾ソフトウェアの稼動が依存する可能性のある、許諾ソフトウェア以外の製品、ソフトウェア又はネットワークサービス(当該製品、ソフトウェア又はサービスは第三者が提供する場合に限られず、ソニー、ソニーの関連会社又は原権利者が提供する場合も含みます)は、当該ソフトウェア又はネットワークサービスの提供者の判断で中止又は中断する場合があります。ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアの稼動が依存する可能性のあるこれらの製品、ソフトウェア又はネットワークサービスが中断なく正常に作動すること及び将来に亘って正常に稼動することを保証いたしません。
3. お客様に対するソニー、ソニーの関連会社及び原権利者の損害賠償責任は、当該損害がソニー、ソニーの関連会社又は原権利者の故意又は重過失による場合を除きいかなる場合にも、お客様に直接且つ現実に生じた通常の損害に限定され且つお客様が証明する許諾ソフトウェアの購入代金を上限とします。但し、かかる制限を禁止する法律の定めがある場合はこの限りではないものとします。

第6条(用途の限定)

許諾ソフトウェアは高度の安全性が要求され、許諾ソフトウェアの不具合や中断が生命、身体への危険、有体物又は環境に対する重大な損害に繋がる用途(例えば、原子力発電所を含む核施設の制御、航空機の制御、通信システム、航空管制、生命維持装置又は兵器)を想定しては設計されていません。ソニー、その関連会社及び原権利者は、許諾ソフトウェアがこれら高度の安全性が要求される用途に合致することを一切保証しません。

第7条(第三者に対する責任)

お客様が許諾ソフトウェアを使用することにより、第三者との間で著作権、特許権その他の知的財産権の侵害を理由として紛争を生じたときは、お客様自身が自らの費用で解決するものとし、ソニー、ソニーの関連会社及び原権利者に一切の迷惑をかけないものとします。

第8条(著作権保護及び自動アップデート)

1. お客様は、許諾ソフトウェアの使用に際し、日本国内外の著作権法並びに著作権者の権利及びこれに隣接する権利に関する諸条約その他知的財産権に関する法令に従うものとします。また、許諾ソフトウェアのうち、著作物の複製、保存及び復元等を伴う機能の使用に際して、ソニーが必要と判断した場合、ソニーが、当該著作物の著作権保護のため、かかる許諾ソフトウェアによる複製、保存、復元等の頻度の記録をとり、状態を監視し、さらに複製、保存及び復元の拒否、本契約の解約を含む、あらゆる措置をとる権利を留保することに同意するものとします。
2. お客様は、お客様がソニー又はソニーの指定する第三者(ソニーの関連会社を含む)のサーバーに指定デバイスを接続する際、次の各号に同意するものとします。
(ア)許諾ソフトウェアのセキュリティ機能の向上、エラーの修正等の目的で許諾ソフトウェアが適宜自動的にアップデートされること、

- (イ)当該許諾ソフトウェアのアップデートに伴い、許諾ソフトウェアの機能が追加、変更又は削除されることがあること
- (ウ)アップデートされた許諾ソフトウェアについても本契約の各条項が適用されること

第9条(ネットワークサービス)

許諾ソフトウェアは、ネットワークサービスを通じて利用可能となるコンテンツと共に使用されることを想定している場合があります。コンテンツ及びネットワークサービスを利用するにあたっては、当該ネットワークサービスのご利用条件に従っていただく必要があります。かかるご利用条件にご同意いただけない場合、許諾ソフトウェアの利用は限定的なものとなる場合があります。ネットワークサービス又はコンテンツのご利用にあたっては、インターネット環境が必要となります。インターネット環境の整備、セキュリティ及びその費用についての責任はお客様にあるものとします。尚、許諾ソフトウェアの動作や機能は、インターネット環境により限定的なものとなる場合があります。また、ネットワークサービスの中止又は終了及びインターネット環境等により、許諾ソフトウェアと共に使用されるコンテンツが利用できなくなる場合があります。

第10条(契約の解約)

1. ソニーは、お客様が本契約に定める条項に違反した場合、直ちに本契約を解約し、またはそれによって蒙った損害の賠償をお客様に対し請求できるものとします。
2. 前項又はその他の事由で本契約が終了した場合でも、第4条、第5条乃至第13条の規定は有効に存続するものとします。

第11条(許諾ソフトウェアの廃棄)

前条の規定により本契約が終了した場合、お客様は契約の終了した日から2週間以内に許諾ソフトウェアおよびその複製物を廃棄するものとし、その旨を証明する文書をソニーに差し入れるものとします。

第12条(契約の改訂)

ソニーはお客様が登録した電子メールアドレスへの電子メールの発信、ソニー所定のサイトでの告知又はその他ソニーが適切と判断する方法をもってお客様に事前に通知することにより、本契約の条件を改訂することがあります。お客様はかかる改訂に同意しない場合は、本契約の条件改定の発効日前までに、ソニーにその旨を連絡するとともに直ちに許諾ソフトウェアの使用を中止するものとします。本契約の条件改訂の発効日以降のお客様による許諾ソフトウェアの使用をもって、お客様は改訂されたソフトウェア使用許諾契約書に同意したものとします。

第13条(その他)

1. 本契約は、日本国法に準拠するものとします。
2. お客様は、許諾ソフトウェアを日本国外に持ち出して使用する場合、適用ある輸出管理規制、法律、命令に従うものとします。
3. 本契約は、消費者契約法を含む消費者保護法規によるお客様の権利を不利益に変更するものではありません。
4. 本契約の一部条項が法令によって無効となった場合でも、当該条項は法令で有効と認められる範囲で依然として有効に存続するものとします。
5. 本契約に定めなき事項又は本契約の解釈に疑義を生じた場合は、お客様及びソニーは誠意をもって協議し、解決するものとします。

サポート情報について

本機の最新情報については、以下のホームページをご覧ください。

<https://www.sony.jp/support/audio/>

「Q&A」ホームページ

お客様からよくあるお問い合わせと解決方法に関する情報を、以下のホームページで確認できます。

<https://www.sony.jp/support/faq.html>

型名:STR-DN1080

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などは
ホームページをご活用ください。

<https://www.sony.jp/support/>

使い方相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・ **0120-333-020**
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ **050-3754-9577**

修理相談窓口

フリーダイヤル・・・・・・・・・・ **0120-222-330**
携帯電話・PHS・一部のIP電話・・・ **050-3754-9599**

※取扱説明書・リモコン等の購入相談はこちらへお問い合わせください。

FAX(共通) 0120-333-389

左記番号へ接続後、
最初のガイダンスが
流れている間に
「306」+「#」
を押してください。
直接、担当窓口へ
おつながします。

ソニー株式会社 〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

 **DOLBY ATMOS®**

dts 

Made for

 **iPhone | iPad | iPod**



Works with
Apple AirPlay

LDAC

HDMI

 **DLNA**
CERTIFIED™





* 4 6 8 6 5 2 4 0 3 *

(2)